

# コミュニケーションの充実を図る 教育活動の推進

— 協同的な関係を築き、  
集団としての学習力を高めるために —



平成24年2月  
東京都多摩教育事務所

## 目次

事業の趣旨及び目的 研究主題設定の理由 研究の内容	1
人間関係の構築を目的としたコミュニケーション	2
家庭及び地域社会相互の連携協力とコミュニケーション	3
研究構想と各部会の研究	4
学習コミュニケーション部会の研究について	6
学習コミュニケーション部会 実践事例	10
生活コミュニケーション部会の研究について	28
生活コミュニケーション部会 実践事例	32
研究のまとめと今後の課題	52

# — 研究の概要 —

## — 東京都多摩地区教育推進委員会 第17次計画（通算第38年次） —

### 事業の趣旨及び目的

多摩地区の教育の改善、振興を図るための提言及び情報提供を行うことを目的として東京都多摩地区教育推進委員会を設置し、運営を行う。

本年度は、多摩地区の各学校に対して、コミュニケーションの充実を図る教育活動の推進の方向性について、具体的な実践事例を挙げながら提言及び情報提供を行う。

### 今年度の研究主題

#### コミュニケーションの充実を図る教育活動の推進

#### — 協同的な関係を築き、集団としての学習力を高めるために —

### 研究主題設定の理由

他者とのコミュニケーションを充実させることは、自分自身の考えを明確にして表現することや他者を理解し他者と意見を共有し、互いの考えを深めていくことにつながる。しかしながら、児童・生徒のコミュニケーションについては、「別に」「ビミョー」「ヤバくね～」「マジで」などの言葉が、子供たちの会話の中で使われ、自分の考えや感情を明確に伝えられなかったり、他者の考えや感情を理解できなかったりといった現状が見られる。

学校においては、教室内の日頃からのコミュニケーションを充実させることにより、教師と児童・生徒、児童・生徒同士の協同的な関係が生まれ、集団としての学習力を高めていくことができると考える。そのためにも、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かし、児童・生徒一人一人を成長させるという視点に立って、教育活動を推進していくことが極めて重要である。また、日頃から相手の発言をしっかりと聞き取り、受け止めること、状況に応じて的確に返すことを含めて、全ての児童・生徒が授業や日常におけるコミュニケーションに参加し、互いに理解し合えるような配慮が求められる。

そこで、学校における、コミュニケーションの充実を図る教育活動の推進の方向性について、実践事例等を用いて示していく。

### 研究の内容

- 児童・生徒相互のコミュニケーション、教師と児童・生徒とのコミュニケーションの充実を図った学級経営を構築することにより、授業における集団として学習力が高まるとともに、児童・生徒相互の豊かな人間関係を育むことができる。
- 授業におけるコミュニケーション（学習コミュニケーション）、授業以外の日常的な生活の場面におけるコミュニケーション（生活コミュニケーション）の両方の視点から、コミュニケーションの充実を図る必要性があるとの考えに立ち、「学習コミュニケーション部会」、「生活コミュニケーション部会」の二つの部会を構成し、研究を進めていく。
  - ・ コミュニケーションを充実させた授業を展開することにより、児童・生徒一人一人が、自分の考えを明確にもてるとともに、さらに自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
  - ・ 学校の日常的な生活の場面におけるコミュニケーションを充実させることにより、よりよい人間関係を築き、望ましい集団を育成することができる。

## 人間関係の構築を目的としたコミュニケーション

本委員会では、コミュニケーションを、言葉による意味や感情をやりとりする行為ととらえた。もちろん、コミュニケーションは言葉によってのみ成立しているわけではない。非言語的な面も大きくかかわっているが、児童・生徒のコミュニケーションの現状から、本委員会では、言葉によるコミュニケーションに焦点を当てていく。

また、コミュニケーションは、人々の共同生活を豊かなものにするため、個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在についての理解を深め、尊重していくようにすることが大切である。よりよい生活や人間関係を築くためにも、自分や他者の思いや考えを共通又は協働の目的のもとに整理して、互いに理解し合うといったコミュニケーションが重要である。

そこで、人間関係の構築等を目的としたコミュニケーションに関する指導を行う際に大切なことは、次の4点であると考えた。

- ①語彙を豊かにし、表現力を育むこと
- ②自分の思いや考えを伝えようとするとともに、相手の思いや考えを理解し尊重できるようにすること
- ③自分の思いや考えの共通点や相違点を整理しつつ、相手の話を聞き、受け止めることができるようにすること
- ④相手の話に対して、状況に応じた的確に反応できるようにすること

その上に立って、本委員会では、次の観点で、学校生活において一人一人の児童・生徒に育みたい人間関係を明確にした。

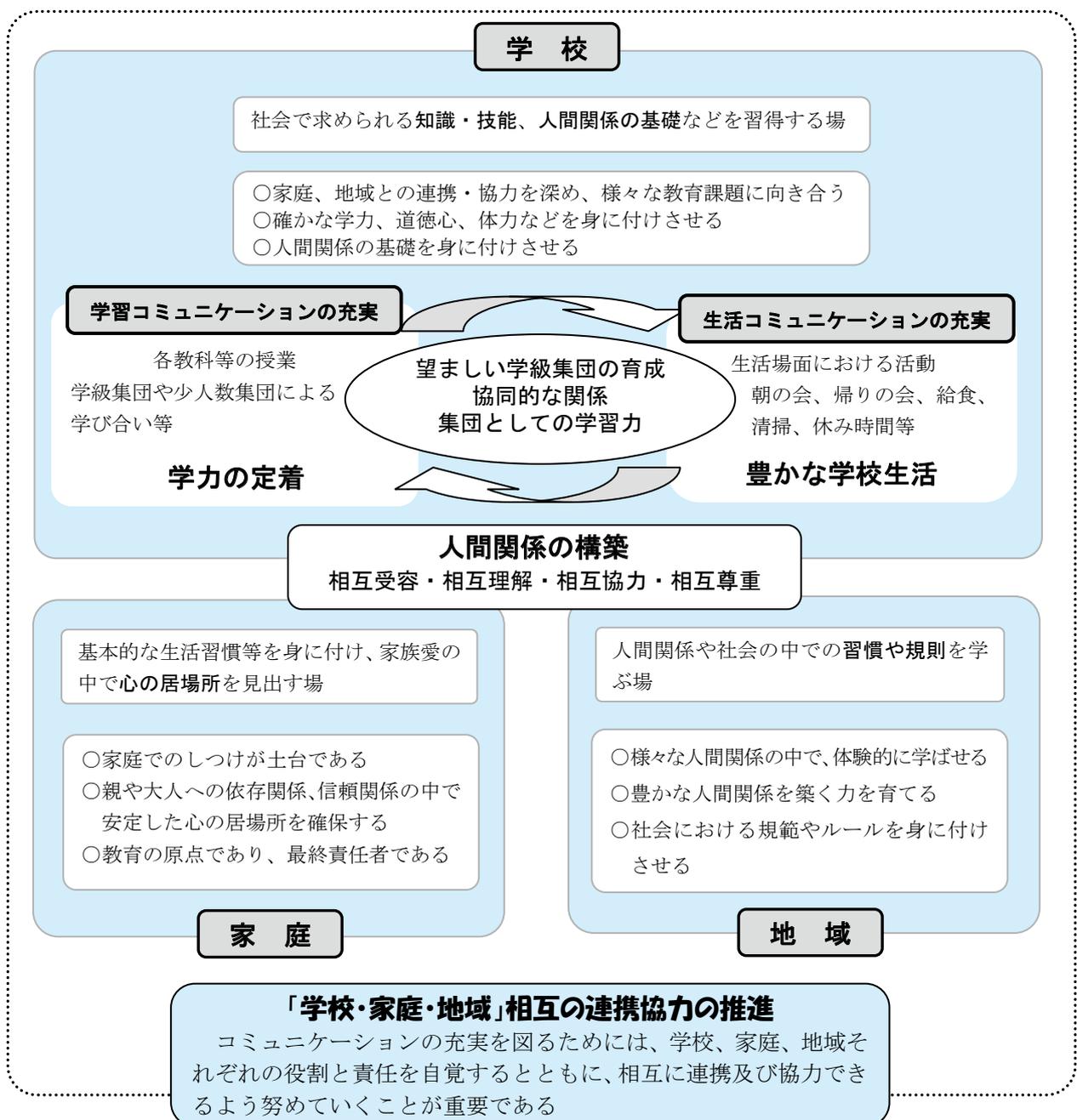
観点	人間関係	わらい	コミュニケーション
相互受容	互いに気持ちを受け止め合う関係	相手の考えを肯定的に受け止め合う関係を育成する	自分の思いや考えを伝えようとする 相手の話を最後まで聞き、受け止めようとする
相互理解	互いに共感的に理解し合う関係	互いのよさや違いを共感的に理解し合う関係を育成する	自分の思いや考えの共通点や相違点を整理しながら聞き、状況に応じた的確に反応する
相互協力	互いに助け合い、協力し合う関係	互いのよさを生かし合い、助け合い、協力し合う関係を育成する	共通の目的に向かって課題について、話し合い、解決していこうとする
相互尊重	互いの思いや考えを尊重し合う関係	互いの思いや考えを認め合い、尊重し合う関係を育成する	自分たちで意見をまとめ、行動していこうとする

## 家庭及び地域社会相互の連携協力とコミュニケーション

改正教育基本法第13条では、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力について新たに位置付けられた。人間関係の構築を目的としたコミュニケーションは、学校において充実を図っていくことはもとより、家庭及び地域相互の連携協力のもと取り組むからこそ豊かに育成できると考える。学校、家庭、地域それぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互に連携及び協力できるよう努めていくことが重要である。

児童・生徒は家庭・地域の中で、大人たちや同年齢・異年齢の友人たちとの日常的な交流や様々な体験を通じて、働くことの意味や文化、社会慣習、基本的な生活習慣等を身に付け、人間形成の基礎づくりがなされていく。そこでは、家庭及び地域の人々とのつながりや協同的な関係づくりが重要である。

本委員会では、学校・家庭・地域相互が共通理解しながら連携し、協力していく重要性についても視野に入れながら、学校におけるコミュニケーションの充実について研究を進めていく。



# 研究構想と



本研究では、コミュニケーションを、言葉による意味や感情をやりとりする行為と捉えた。徒同士の協同的な関係が育まれ、集団としての学習力を高めていくことができると考えた。部会、「生活コミュニケーション」部会の二つの部会を構成し、研究を進めた。

## 社会の要請

- グローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共に、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していく必要がある。
- 自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することができる児童・生徒の育成が求められる。
- 経済協力開発機構（OECD）では、児童・生徒に必要な能力の一つとして、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」を挙げている。
- 企業が学生を採用するに当たって重視する能力として7年連続で「コミュニケーション能力」が挙げられている。（日本経団連「新卒採用に関するアンケート調査」）

- 自分のケース
- 児童・シ
- 児童・
- 約80%
- インタ
- 減少に
- の指摘

〈研究主題〉

## コミュニケーションの充実を図る教育活動

### 学習コミュニケーションの充実

児童・生徒及び教師との関係を基に学習集団の特性を明らかにし、集団の状態に応じたコミュニケーションの形態とコミュニケーションを充実する指導の手だてを工夫することにより、学習課題の解決に向けて学び合う学習集団になるであろうと考え、次の視点から授業を構想し、実践を通して検討を行った。

【視点1】学習集団の状態に応じた、授業における集団の学習力を高める指導の手だての構築

【視点2】授業の中で、個の力を高めるための指導の手だての構築

〈目指す児童・生徒像〉

学習課題の解決に向けて主体的に関わり、学び合いを通して、自らの見方を広げ、考えを深めることができる児童・生徒

学

相互受容

よいよい人間  
集団とし  
向

相互協力

相互受容	互いに気持
相互理解	互いに共感
相互協力	互いに助け
相互尊重	互いの思い

# 各 部 会 の 研 究

そして、学校における日頃からのコミュニケーションを充実させることにより、教師と児童・生  
そこで、授業と授業以外の日常的な生活場面の両方の視点から捉え、「学習コミュニケーション」



## 児童・生徒の現状

感情や思いをうまく表現できない、他者の気持ちを受け止めたり理解したりできない等、他者とのコミュニ  
オンを図る上で課題がみられる。  
生徒は気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーションをとる傾向が見られ、また、コミュニケー  
をとっているつもりが、実際は自分の思いを一方向的に伝えているに過ぎない場合が多いなどの指摘がある。  
生徒が不登校になったきっかけと考えられる状況として、友人関係をめぐる問題が約20%を占めている。  
の大学等において、家族、友人などの対人関係に関する学生相談が増加している。  
ーネットを通じたコミュニケーションが児童・生徒に普及している一方、外遊びや自然体験等の機会  
のより、身体性や身体感覚が乏しくなっていることが、他者との関係づくりに負の影響を及ぼしていると  
がある。

## の推進 —協同的な関係を築き、集団としての学習力を高めるために—

### 校

#### 生活コミュニケーションの充実

授業以外の日常的な生活場面におけるコミュニケーションを充実  
させることにより、よりよい人間関係を築き、望ましい学級集団が  
形成され、学級における居心地感を高めていくことにつながると考  
え、次の視点から、教育活動を構想し、実践を通して検討を行った。

【視点1】学級集団の状態に応じた、学校の生活場面における指導の  
手だての構築

【視点2】個々のコミュニケーションの力を身に付けるための指導の  
工夫



〈目指す児童・生徒像〉

日常生活において、自分の考えを相手に分かりやすく伝  
えるとともに、互いに認め合い、進んでよりよい人間関係  
を築こうとする児童・生徒

相互理解

関係を築き、  
ての学習力の  
上を目指して

相互尊重



ちを受け止め合う関係
的に理解し合う関係
合い、協力し合う関係
や考えを尊重し合う関係

## 学習コミュニケーション部会の研究について

### 研究の基本的な考え

学校は「集団で学ぶ」という特質を生かし、集団としての学習力を高めることにより、児童・生徒一人一人が新たな見方や考え方、感じ方を積極的に取り入れる中で自己を創造的に発展させ、確かな学力の定着を図る必要がある。

集団と個の関係は、集団の中で一人一人が尊重され生かされながら、主体的な参加と協力を基に集団が成り立ち、その向上が図られている。

本部会では、学習集団の特性を明らかにし、集団の状態に応じたコミュニケーションを充実させることにより、主体的な学習を促し、互いに学び合う学習集団の育成につながると考えた。さらに集団の学習力を高めるためには、個の力を高めることが必要であり、自己の考えを明確にし、相互に伝え合う指導の工夫が重要であると考えた。

そこで、次の2つの視点から、実践を通して研究を進めることとした。

### 学習コミュニケーションの充実

#### 学習集団の特性

互いの考えを伝え合い、自らの考えや一人一人の考えを深める

「互いの考えを伝え合う」「他の考えを基に自らの考えを再構築する」

「多様な考えから集団の考えを深める」

#### 【視点1】

学習集団の状態に応じた、授業における集団の学習力を高める手だての構築

授業のねらいを達成するためのコミュニケーションの形態や方法などを工夫する。

#### 【視点2】

授業の中で、個の力を高めるための指導の手だての構築

自己の考えを明確にし、相互に伝え合う力を育てる指導を工夫する。

### 授業場面におけるコミュニケーションの位置付け

授業場面におけるコミュニケーションの充実は、児童・生徒一人一人が学習課題に対して、自己の考えの根拠等を明確にした上で、他者へ伝えるとともに、他者はその考えを正確に受け止めることである。その際、一部の児童・生徒にとどまることなく、全体の共通課題として解決に向けた考えの共有化を図ることが大切である。

児童・生徒はその過程を通して、他者との考えの異同に気付き、自己の考えの確認、修正、補完を繰り返しながら再構築し、より発展させ確かな学力を身に付けていく。

そこで、授業場面におけるコミュニケーションを本時のねらいと学習集団の状態との関係の中で、学習過程に適切に位置付けることが重要である。このことは、児童・生徒の主体的な授業参加を促し、豊かな学びを保障するとともに、教科のねらいの達成に極めて有効な手段であると考えられる。

#### ○期待される教育効果

- ・ 多様な情報や考えに触れることで、児童・生徒が多面的なものの見方や考え方、感

じ方ができるようになるとともに、自己の思考が深まる。

- ・ 一人では解決できない課題を、集団で解決していく経験を通して、主体的な学習態度が育成される。
- ・ 集団の考えを発展させることで、様々な立場から公正な判断をする力が身に付く。

### ○授業場面におけるコミュニケーションの要件

- ・ 自己の考えを明確にし、表現する。
- ・ 受容的な態度で他者の考えを理解する。
- ・ 事実を正確に理解し、交流する。
- ・ 他者との考えの異同に気付き、自己の考えを再構築する。

つまり、情報の受信・分析・発信という一連の流れを繰り返し、自らの考えや集団の考えを発展させることが授業場面におけるコミュニケーションでは必要である。

## 学習集団の状態

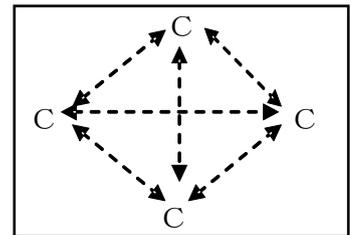
児童・生徒のコミュニケーションの状態により、授業場面における効果的な指導の手だては異なることから、本部会では、コミュニケーションの要件を踏まえ、学習集団の状態を次の3つに分類した。

### 学習集団の状態① 情報の受信・発信が個々で行われている状態

自己の考えを発信しているが、児童・生徒相互の受け止めや意見の交流等が希薄で、教師の支援が必要な状態の学習集団である。

このような学習集団は、本時のねらいに関連させた多様な考えを、コミュニケーションを通して受容・理解し、根拠等に基づいて自己の考えを表現し合う学習活動を行うことが大切である。

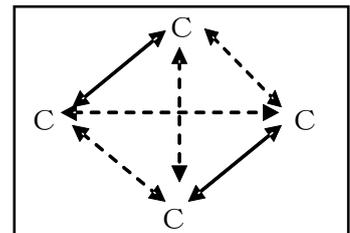
Cは児童・生徒 →はコミュニケーションの状態



### 学習集団の状態② 情報の受信・発信が対話を通して行われている状態

限られた小集団での対話が行われているが、対話を基にした個々の考えを全体へ広げ、深め合うことが十分ではない状態の学習集団である。

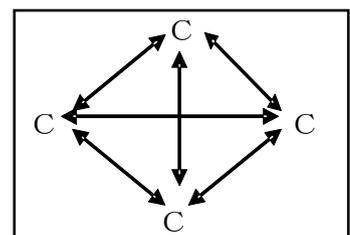
このような学習集団は、全体におけるコミュニケーションの機会を通して、多様な考えについての交流・理解を深め、受信する情報量を段階的に増やし、整理・分析しながら自己の考えを深めていく学習が必要である。



### 学習集団の状態③ 情報の受信・発信が小集団や全体で行われている状態

学習集団における児童・生徒同士の関係性もよく、多様な考えを互いに伝え合い、深め合うことが積極的に行われている状態の学習集団である。

このような学習集団は、コミュニケーションを通して多面的な分析により、学習課題に対して互いの知恵や力を結集し、協同的に解決する学習を重視し、集団の学習力を実感する学習活動を行うことが大切である。



## 指導のポイント

### 視点1 集団の学習力を高める

授業のねらいを効果的に達成するためには、児童・生徒一人一人の学習意欲を高め、互いに学び合う集団として高めていく必要がある。そのために、教師は、児童・生徒全員が参加するコミュニケーションの充実を図り、協同的に学び解決する楽しさを味わわせることが大切である。

コミュニケーション豊かな授業を展開していくために教師は、学習の目的・ねらいに応じて、集団編成の規模や内容、場面などを工夫し、児童・生徒のコミュニケーションの力を高めるとともに、何について考えるのかを明確に示すことが必要である。児童・生徒一人一人が集団から受ける情報の質・量を豊かにするとともに、主体的な学習につなげていくことが極めて重要である。

そこで、本部会では視点1として以下の項目について指導のポイントを整理した。

項目		指導のポイント	
形態	構成規模	小 集 団	学習方法を推進するとともに主体的なコミュニケーションを活性化する
		全 体	学習課題の共有化を図るとともに解決に向けた結論を導き出す
	編成内容	課 題 別	同じ課題意識を基盤に多様な情報を共有し、解決方法を検討する
		習 熟 度 別	習熟に応じた適切な学習活動を通して、学習内容の確実な定着する
		興 味・関 心 別	学習意欲を喚起し、主体的に学習に取り組む
	編成場面	生 活 班 別	日常的な人間関係を背景に多様な考えを交流する
		導 入 場 面	課題を共有し、解決に向けた見通しを立てることができる学習集団を編成する
		展 開 場 面	体験活動や資料活用等を通し、課題を追究することができる学習集団を編成する
	方法	学習課題の提示	終 末 場 面
事 実 追 究			調べた内容を情報交換する学習課題を提示する
意 味 追 究			課題に対する自己の考えを出し合える学習課題を提示する
目的の明確化		価 値 追 究	多様な考えから合意形成を導き出す学習課題を設定する
		情 報 共 有	他者との意見交流を通して、多様な考え方に接するとともに、多くの情報を共有する
教師の支援		課 題 解 決	多面的・多角的な視点から、集団としての考えをまとめる
		視 点 の 明 確 化	課題解決に向けての視点や方向性を明確に示すことで、活性化を図る
	要 約	多様な情報や考えを要約し、論点やテーマの明確化を図る	

### 視点2 個の力を高める

集団の学習力を高めるためには、集団を構成している児童・生徒一人一人の力を伸ばすことが大切である。自己の考えを基に表現する機会を充実し、自己とは異なる考えに接する中で、自己の考えを深め、より発展させようとする意欲を高めていくことが重要である。

児童・生徒が主体的にコミュニケーションに参加しようとする気持ちの高まりは、学習内容が理解でき、解決の見通しや目的等についての自己の考えがもてたときである。さらにその基盤として、互いの考えを認め合い安心して表現できる集団の風土が学級にあることである。

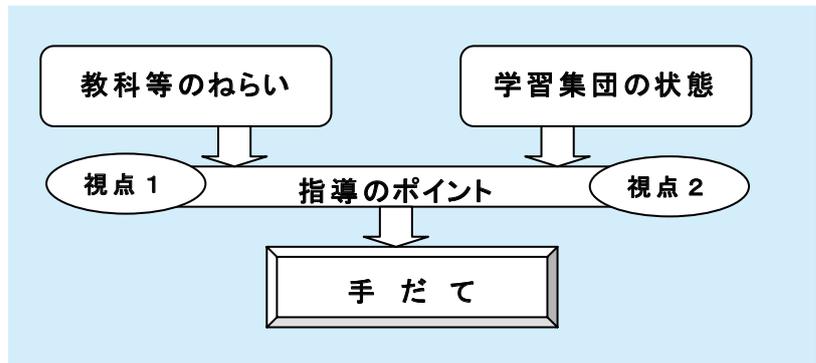
そのために、個に応じた指導を充実するとともに、コミュニケーションのよさや自らの成長を実感できる経験を積み重ねることができる指導の工夫が必要である。

そこで本部会では、視点2として以下の項目について指導のポイントを整理した。

項目		指導のポイント
思考の明確化	課題の把握	自己の課題と学習集団全体の課題との関わりを明確にする
	解決の見通し	自己の課題を解決するための見通しをもつ
	情報収集	課題に照らし必要な情報や大切な内容を収集する
伝え合い	情報の受信	他者の考えを受容的に受け止め、理解する
	情報の整理・分析	他者の考えと自己の考えとを比較・関連付けながら分析をする
	情報の発信	自己の考えを言語化することで、思考を論理的に整理し、適切な方法で表現する
結果の確認	相互評価	自己の思考について他者から価値付けられることで、思考の再構築や強化を図る
	自己評価	自己の思考の変容と理由について自覚する

## 実践事例における指導の手だて

コミュニケーションを充実し、教科等のねらいを効果的に達成するために、視点1、視点2における指導のポイントを踏まえ、具体的な指導の手だてを検討してきた。特に、各授業において、コミュニケーションの充実を図るための観点を明確にし、学習過程に位置付けてきた。



実践事例	本時のねらい	学習集団の状態	指導のポイント	指導の手だて
【小学校 第5学年社会科】 根拠や理由を大切に した学習コミュニケーション	自動車の生産工程を基にして、自動車生産に従事している人々の工夫や努力について考え、学習問題をつかむ。	学習集団の状態① 情報の受信・発信が個々で行われる状態	・生活班別小集団 ・根拠や理由に基づいた伝え合い（事実追究） ・ノートを活用した自己評価	<b>視点1</b> ○小集団の活用 ○多様な意見の交流 ○ねらいに迫る教師の支援 <b>視点2</b> ○根拠情報の伝え合い ○自己の成長への気付き
【小学校 第3学年国語科】 叙述に基づいた自己の考えを深める学習コミュニケーション	登場人物の気持ち、叙述を基に想像しながら読むことができる。	学習集団の状態② 情報の受信・発信が対話を通して行われる状態	・2人組による対話 ・叙述に基づいた考えの比較・関連 ・ノートを活用した自己の振り返り	<b>視点1</b> ○児童による相互指名 ○集団としての論点の明確化 <b>視点2</b> ○対話による他者の考えの把握 ○叙述に基づいた考えの整理・分析
【中学校 第3学年音楽科】 全体の響きと関連させ、曲想に迫るための学習コミュニケーション	声部の役割と全体の響きの関わりを理解して、曲想を生かして歌う。	学習集団の状態③ 情報の受信・発信が小集団や全体で行われる状態	・パート別小集団 ・パート提案を基にした曲想の共有化 ・学習カードを活用した自己評価	<b>視点1</b> ○リーダーを中心とした話し合い ○クラス全体の響きを意識した話し合い <b>視点2</b> ○曲想のイメージの表現 ○合唱する楽しさの実感

## 根拠や理由を大切に学習コミュニケーション

小学校第5学年 社会科 単元名 「国民生活を支える自動車工業」

### 単元について

#### 単元の目標

- 我が国の工業生産の様子について理解し、様々な工業製品と人々の生活との関連について考えとともに、我が国の工業生産の発展に対する関心を育てるようにする。
- 様々な工業製品が国民生活を支えていること、我が国の各種の工業生産や工業地域の分布、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きについて、調査したり、地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、表現する。

#### 指導計画

つかむ		調べる			まとめる			
1 自動車の普及によって人々の生活が便利になったことを挙げその意味を考え	2 生活を便利にするために必要な車を考え、それらがどのように作られているかに関心をもつ。	3 <b>自動車の生産工程の資料を基にして、自動車生産に従事している人々の工夫や努力について考え、学習問題をつかむ。</b> 【本時】	4 開発の仕事の内容を調べ、開発と消費者のニーズや環境との関係について分かったことをまとめる。	5 組み立て工場での生産の様子を調べ様々な工夫や努力について分かったことを話し合う。	6 関連工場の仕事の様子や組み立て工場との関連について調べ、関連工場の役割について分かりやすくまとめる。	7 部品や自動車の輸送について調べ、輸送のもつ役割に気付く。	8 学習を振り返り、自動車工業における様々な工夫や努力から、自動車工業の意味を考える。	9 今後の自動車の在り方について自分なりに考え、それを基に話し合う。

### 本時について



#### 本時のねらい

自動車の生産工程を基にして、自動車生産に従事している人々の工夫や努力について考え、学習問題をつかむ。

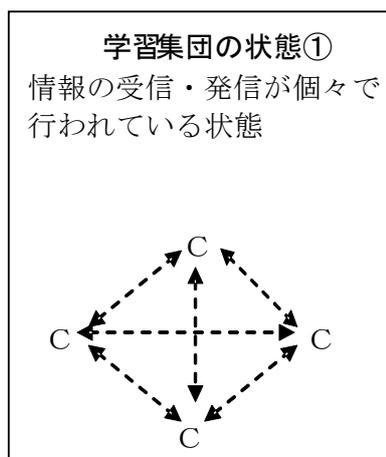
#### 本時の位置付け

単元全体の学習問題を設定するために、全児童が関わって個々の疑問や考えを練り上げていく必要がある。学習問題の根拠が感覚的であったり、情緒的であったりすることなく、自動車生産工程の写真資料などの事実を基に考えたことを話し合い、追究することを整理し、学習問題を設定していくことが重要である。自動車生産に従事している人々の工夫や努力について、コミュニケーションを行うことにより多様な考えを出し合い、共有することにより課題解決につながるため、本時は、児童相互のコミュニケーションが特に大切であると考えた。

#### 本時における目指す児童像

- 調べる観点を明確にし、生産工程の写真資料から従事している人々の作業の様子について丁寧に読み取ることができる児童
- 生産工程の写真資料を調べて分かったことを自分なりの根拠をもって、表現することができる児童
- まとめたことを基に話し合い、意見を交換することで、生産工程に従事している人々の工夫や努力について関心を持ち、追究意欲をもつことができる児童

## 学習集団の状態について



### 【学習集団の実態】

- ◆ 解決すべき課題を教師が具体的に示せば、視点を明確に簡単な資料を読み取ることができる。
- ◆ 相手の意見を受け止めることが苦手で、自分の思いつきで発言をしていることが多い。
- ◆ 資料から調べた事実について、相手に伝えることができる。
- ◆ 調べ学習等の際に自分の解決する課題について、教師の支援により活動が行われている。

### 目指す児童像に迫るために

- 多様な意見を交流するために生活班を活用した話し合いを行う。
- 相手の考えを受け止めることができるよう調べて分かったことを発信する活動を行う。
- なぜそう考えたのか、自分の中で整理させるよう声かけや指示を適切に行う。
- 考えること、情報交換することなど、児童の活動内容を明確にする。

## コミュニケーションを充実するための指導の手だて

### 視点 1

- **小集団の活用**
  - ・ 日常的な人間関係を背景に、自分の考えを正しく伝えることができる。
  - ・ 座席の近くの友人や生活班などを活用し、少人数、3～4人程度、学級全体と段階的に構成人数を増やしていく。
- **多様な意見の交流**
  - ・ 調べて分かったことを他者に発信し、相互に理解させるために根拠資料に基づいて説明させる。多様な意見を交流させ、他者の意見を受け止めることで、よさにも気付かせる。
- **ねらいに迫る教師の支援**
  - ・ 根拠や理由を基に話し合いができていないグループに教師が話し合いの中に入り支援をする。
  - ・ 全体で発表させる際に教師が発言内容を要約し、児童が論点や課題について気付く。

### 視点 2

- **根拠情報の伝え合い**
  - ・ 生産工程という共通内容をおさえた上で、各工程での工夫について各自に予想させるために、資料から工夫を読み取らせる。資料を調べて分かったことからノートに自分の考えを文章で表現させることで、自己の思考を明確化させる。
- **自己の成長への気付き**
  - ・ 自己評価を書くことで、学習のねらいの達成について気付くとともに、コミュニケーションのよさを実感させるため他者の意見を聞いて感じたことを書くようにする。

# 本時の展開

**本時のねらい** 自動車の生産工程を基にして、自動車生産に従事している人々の工夫や努力について考え、学習問題をつかむ。

導入

- 前時の学習を想起する。
  - ・自動車工場の位置を確認する。
  - ・生産の様子について予想する。



- **自動車の生産工程の写真から工程の順番を予想し、近くの人と確認を行う。**

形態  
ペア

私はプレス、溶接、塗装、組み立て、検査の順になりました。



私も同じです。

**視点2 根拠情報の伝え合い**

■調べて分かった自己の考えを近くの人とペアで確認し合う。

- **調べたい生産工程を選択し、工夫や努力を調べる。**

個別学習



検査は機械だけではなく、人がやってみたいです。

- **自動車生産に関わる工夫について、グループで話し合う。**

形態  
生活班別

**【コミュニケーション場面】**

教師：生活班で調べたことについて話し合います。  
自動車生産に関わる工夫について発表してください。

**視点1 小集団の活用**

児童A：私は「検査」について関心があったので調べました。調べて分かったことは、検査は機械でなく人がしているということです。

児童B：私は「塗装」について調べました。調べて分かったことは、塗装は機械がやっているということです。

児童C：他にないですか。ないようであれば… 話し合いが十分に進んでいない。

教師：AさんもBさんも、**資料のどこから分かったのですか。**  
みんなに教えてあげるとよく伝わるとおもいますよ。

どこから分かったのですか？

**視点1 ねらいに迫る教師の支援**

話し合いが進んでいない集団に対しては、根拠や理由を教師が促し、話し合いが進むよう支援する。

～から調べました。



児童B：私は、資料集の38ページの働いている人のインタビューから調べました。

児童A：なるほど。確か本当に資料集に出ていますね。気が付きませんでした。機械だけでなく自動車の生産には人が関わっているんですね。

児童C：すごいね。メモしよう。

■事実のみを伝えるだけでなく、考えに対して理由を互いに問いかけるよう指示することで根拠や理由を明確にする。

相手の発言を受容するようさせる。

児童D：私は「プレス」について調べました。資料集ではプレスはとても危険な作業なので、安全の工夫がたくさんありました。

児童E：私も「プレス」について調べました。Dさんの意見に加えて、ロボットが写っていたので人ではなくロボットがやっていると思いました。

児童F：工程によってロボットがやっているところと人がやっているところがあることに気が付きました。

児童G：同じ資料でも気が付くところがこんなに違うんですね。

### 視点1 多様な意見の交流



■多様な意見を聞きコミュニケーションのよさを実感する。

### ○ 学級全体で学習問題をつくる。

#### 形態 全体

プレスはロボットがやっています。人がやると危ないから…。

### 視点1 ねらいに迫る教師の支援

■生活班で話し合われた内容について発表し、根拠資料を確認したり、発言内容を要約したりするなど、支援することで、全体で学習問題を練り上げる。



プレスの工程は、人ではなくロボットがやっているということだね。安全性から考えると人ではなくロボットがプレスする方が安全ですね。

### 学習問題「自動車をつくる人々は、どのような工夫をして自動車をつくっているのか」

### ○ 自己評価による授業のまとめをする。

#### 個別学習

今日の授業で分かったことや話し合っただけ感じたことを書きましょう。



「Dさんの考えが自分の考えと同じだったので自信ができました。」  
→ペアによるコミュニケーションの成果

### 視点2 自己の成長への気づき

■自己の考えの変容とコミュニケーションのよさについて児童一人一人のノートに書かせ、実感させる。



話し合っただけ、分からなかったところがよく分かりました。

「機械だけで自動車を作るのではなく、人の手が必要なんだと思いました。」  
→コミュニケーションによる気づき

「様々な人がいろいろ工夫をしていることが少し分かりました。もっと調べたい。」  
→学習のねらいの達成

## 本時の成果

- 「資料集38ページのこの写真から、私は自動車工業では関連工場が大切だと考えました。」など資料を基にした発言が多くなった。同時に、根拠や理由を基に他者へ正確に伝える指導をしたことで、相手の話を最後まで聞き「〇〇さんのいうことはよく分かったよ。」と、自分の考えと相手の考えを比較しながら、肯定的に受け止めようとする場面が授業中に増えてきた。

# 叙述に基づいた自己の考えを深める学習コミュニケーション

小学校第3学年 国語科 教材名 「アナトール、工場へ行く」

## 単元について

### 単元の目標

- 幅広く読書しようとする態度を育む。
- 相手との話の内容を受けて話したり、自分から進んで対話したりすることによって、友達の考えのよさに気付かせる。
- 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。
- 自分の考えを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。

### 指導計画

第1次		第2次		第3次
1～3 全文を読む。 ・学習課題を作る。 ・題名から考えられる事柄や、関連する経験・知識をもとに話し合う。 ・登場人物の台詞や行動に注目しながら読む。	4 学習計画をたてる。 ・個人の課題をもとに話し合い、学級全体の課題を作り、学習計画を立てる。	5～12 <b>学習課題への自分の考えをまとめ、交流する。</b> ・登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に読む。 ・自分の考えを発表し合い一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。 <b>本時（12）</b>	13 感想をまとめる。 ・登場人物の気持ちの変化について発表し合う。	14～16 音読発表会を開く。 ・登場人物の気持ちの変化や場面の様子がよく分かるように音読する。 ・友達の音読のよい点について話し合う。

## 本時について

### 本時のねらい

登場人物の気持ちを、叙述を基に想像しながら読むことができる。



### 本時の位置付け

本時においては、叙述を基に自分の考えをもち、対話を行うことで自分の考えをより明確にする。さらに全体の話し合いの中で友達の考えを聞いて自分の考えと共通点や相違点があることに気づき、自分の考えを再構築することにより、自分の考えが広がったり、深まったりしたことを児童自身が自覚できるようにした。

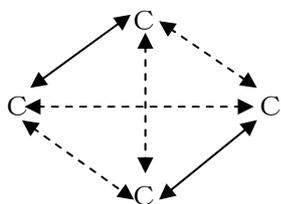
### 本時における目指す児童像

- 自分の考えについて、常に本文の叙述から根拠を求め説明することができる児童
- 相手の考えを理解し、進んで話し合うことができる児童
- 相手の考えを聞くことで、さらに自己の考えを深めることができる児童

## 学習集団の状態の分析

### 学習集団の状態②

情報の受信・発信が対話を通して行われている状態



### 【学習集団の実態】

- ◆ 他者の考えや立場を考えながら対話するなど、話合いの基礎ができている
- ◆ 叙述を基に、自分の考えをもてる児童が多い。
- ◆ 自分の考えと他者の考えの共通点や相違点、よさに気付く児童も見られる。

### 目指す児童像に迫るために



- 自分の考えを伝えるとともに、互いの意見を受け止める話合いを行う。
- 全体での話合いの中で友達の考えに触れ、自己の考えとの共通点や相違点に気づき、自分の考えを深める。
- それぞれの考え方を整理することで、自分の考えを明確にする。

## コミュニケーションを充実するための指導の手だて

### 視点 1

- **児童による相互指名**  
聞き歩きにより確認した他者の考えと、自己の考えの相違点や共通点を確認するために、児童相互の指名を通して、話合いを深めるようにする。
- **集団としての論点の明確化**  
児童の発表した考えを根拠となる叙述の違いによって教師が整理、板書することで、児童が自らの考えについて考えを明確にし、学級としての考えの構築を意識するようにする。

### 視点 2

- **対話による他者の考え方の把握**  
対話を基に、自分の考えとの相違点や根拠など多様な考え方に触れることで、自分の考えを深めるようにする。
- **叙述に基づいた考えの整理・分析**  
叙述を根拠にした互いの意見を比較し、相違点や共通点を確認したり、関係付けたりすることで、自分の考えを登場人物の心情に迫るようにする。

# 本時の展開

**本時のねらい** 登場人物の気持ちを、叙述を基に想像しながら読むことができる。

## 導入

- 本時のめあてや学習活動を確認する。
- ・ 音読をする。

めあて「35ページ11行目『このまま知られずにいたい。』と返事をよこしたときのアナトールの気持ちを考える。」

- **自分の考えを明確にするための情報収集を行う。** **視点2 対話による他者の考え方の把握**



前時に考えた自己の考えの確認

ペアワークにより相手を変えながら対話による考えの伝え合い



〇〇さんの考えは私と同じですね。

■ 対話ができる集団であるため、自由に相手を選び叙述に基づいて互いの考えについて情報交換を行う。

対話したことを基に自分の考えの見直し



△△さんの考えは私と違ったけどその考え方のほうがいいですね。

■ 他者の考えを聞くことにより、課題に対する自己の考えを明確にする。

## 展開

- **全体で話し合う。**

形態全体

**視点1 児童による相互指名**

■ 相違点や共通点を確認するために、ペアワークによって聞いた人を指名して、全体で話し合いを深める。

### 【コミュニケーション場面】

教師：アナトールは「このまま知られずにいたい」と返事をしたのか、その理由について叙述に基づいて発表してもらいます。また、ペアワークで同じ意見だった人を指名してください。

児童A：私は、アナトールは「知られちゃったらだめだ」と思いました。それは28ページ、1～2行目に「実はこっそりとやらなければならない仕事があるんだ」と書いてあるからです。私と同じ意見だったBさんを指名します。

知られたらだめだと思いました。



児童C：はい。私は、AさんやBさんとは違って、「お返しのためにやっているから」と思いました。それは25ページ、8行目に「人間たちに何かお返しができるといいんだけど」と書いてあるからです。私と同じ意見だったDさんを指名します。



お返しのためにやっているからだと思います。

児童B：はい。私も「知られてはいけ  
ない」だと思います。その理由は  
「人間はねずみのことを嫌って  
いるから」だと思いました。そ  
れは、23ページの3行目に「ね  
ずみってやつは、泥棒とおんな  
じさ。」と書いてあるからです。  
だから見つかったら、いじめら  
れるから絶対に知られてはいけ  
ないと思いました。

**視点1 集団としての論点の明確化**

教 師：今大きく2つの意見に分かれましたね。自分の考えがどちらになるか発表しましょう。

児童E：私は、Aさんの考えと同じです。理由は「実はこっそりやらなければならない仕事があるんだ。」と書いてあったからです。

児童F：私も同じ意見でした。

教 師：皆さんの意見をまとめるとアナトールは「知られてはいけ  
ない」という気持ちが  
強いために「知られずにいたい」と返事をしたようです。ただ同時に「お返しのため  
にやっているのでこのまま知られたくない」という気持ちもあったかもしれませんね。

**視点2 叙述に基づいた考えの整理・分析**

児童D：はい、私は、はじめCさんと  
同じ意見だったのですが、Aさん  
やBさんの意見を聞いて「知ら  
れてはいけ  
ない」に変わりました。

教 師：それはどうしてですか。

児童D：はい、AさんやBさんのように  
「知られてはいけ  
ない」ことが  
文の中にたくさんあったからで  
す。

■考えが再構築され、考えがより深まったこと  
を児童に意識するようにする。

○ **学習を振り返る。**

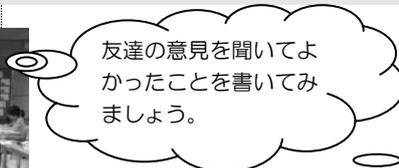
個別学習

■今日、新たに分かったことや他者の意見のよいところなど、自己の思考の  
変容に至った理由について自覚する。

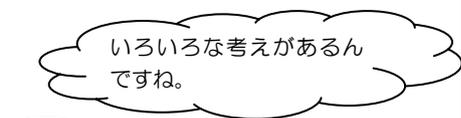


(児童のノートから)

Eさんとは、意見は同じで  
したが、理由が違って、そ  
んな考えもあるのだと気付  
きました。  
→ペアのコミュニケーションの  
成果



自分とは違った意見を  
聞くと、自分の考えも  
もっといろいろ出てく  
るんじゃないかなと思  
いました。  
→全体のコミュニケーシ  
ョンの成果



みんなと話をし、自分の考えと同  
じ人の話を聞くうちに、もう一度、  
自分の考えを見直したら「なるほど  
な」自分の考えはなかなかいいなど  
自信が付きました。  
→学習のわらいの達成

アナトールは最初悲しい気持ちだから正体を  
隠していたと思っていただけ、みんなの話を  
聞いてドセットの言葉で堂々と人間にチーズ  
のお礼をしようと誇りをもってがんばって  
いたんだと分かりました。とてもうれしい気持ち  
になりました。  
→学習のわらいの達成

**本時の成果**

- 登場人物の気持ちを叙述に基づいて考え、全体での話し合いにより多様な考えに触れながら「文にこう書いてあるから、こういう気持ちだったと思います。」など文章をより深く読み取る児童が多く見られた。

## 全体の響きと関連させ、曲想に迫るための学習コミュニケーション

中学校第3学年 音楽科(A表現・歌唱) 題材名「歌詞の内容を味わい、クラス全体の響きに生かそう！」

### 題材について

#### 目標

- 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりなどに関心を持ち、それらを生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。
- 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わう、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解するなどして曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- 創意工夫を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌う。

#### 題材

「見上げてごらん夜の星を」 作詞 永 六輔 作曲 いずみたく

#### 指導計画

1～2	3	4	5	6	7
歌詞の内容を理解して、自分の声部の旋律を歌う。	自分の声部と他声部との関わりを理解して歌う。	歌詞の内容と音楽の諸要素との関わりを理解する。	歌詞の内容と音楽の諸要素を全体の響きに生かして表現する。	<b>自分の声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、曲想を生かして歌う。</b> 【本時】	学級全体で考えた全体の響きを表現する。

### 本時について

#### 本時のねらい

声部の役割と全体の響きの関わりを理解して、曲想を生かして歌う。



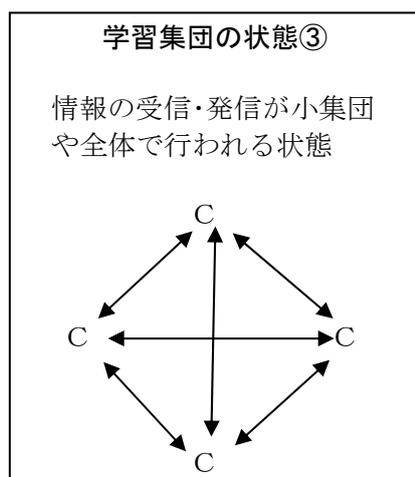
#### 本時の位置付け

曲想を生かした表現にするためには、各自の曲想のイメージを全体で共有し、自分の声部の役割と全体の響きと関連させながら曲想に迫る必要がある。本時において、各声部におけるコミュニケーションから全体でのコミュニケーションに発展させ、学級全体で曲想に迫るためにそれぞれの課題を明確にし、主体的に曲作りに協力することを目指し、本時を位置付けた。

#### 本時における目指す生徒像

- 他者の考えを尊重し、よさを認め合える生徒
- 主体的に自分たちの課題を見出し、全員で協力し、集団全体を高めていこうとする生徒
- リーダーを中心とした話し合いができる生徒

## 学習集団の状態の分析



### 【学習集団の実態】

- ◆ 日常の学校生活においてもリーダーを中心としたまとまりをもっている。
- ◆ 設定された視点について全員が意見を述べ、全員で確認するという学習の習慣が定着しており、小集団を越えた意見も出やすい。
- ◆ 互いに意見を出し合うが、そこから集団としての考えを構築することは十分ではない。
- ◆ リーダーは、話合いを進行するとともに、技能的な指導を行うことがある。

### 目指す生徒像に迫るために

- パートリーダーを中心とした声部別小集団による主体的な話合いを行うことで、曲想に迫る
- 一人一人が集団としての歌声を高めていこうという意識を高め、全体の響きを考え、調和のある合唱となるため話合いを行う。

## コミュニケーションを充実するための指導の手だて

### 視点 1

- **リーダーを中心とした話合い**  
パートリーダーを中心とした主体的な話合いにより、各声部の役割を明確にするとともに、その充実に向けた考えを交流することで、曲想のイメージの共有化を図る。
- **クラス全体の響きを意識した話合い**  
声部の役割と全体の響きとの関わりを自覚し、各声部の思いやよさを生かしながら、学級全体で曲想に迫る話合いを行うことで、曲にふさわしい音楽表現を工夫する。

### 視点 2

- **曲想イメージの表現**  
自己がイメージする曲想について適切に表現し、他者へ伝えるとともに、自分と異なる曲想のイメージについても、その思いやよさを積極的に見出し、共感的に理解しようとする。
- **合唱する楽しさの実感**  
コミュニケーションによって共有化された曲想を、生徒一人一人や各声部が全体の響きを考えながら表現する素晴らしさに感動するとともに、合唱の楽しさを実感する。

# 本時の展開

導入  
展開

**本時のねらい** 声部の役割と全体の響きの関わりを理解して、曲想に活かして歌う。

- 前時の課題点を確認する。
  - ・個人の考えをまとめる。
  - ・声部（パート）ごとに話し合い、改善点を確認する。

自分の旋律をしっかり歌おう

他のパートを聴きながら歌おう

歌詞の意味をよく考えて歌おう

## ○ 合唱曲の曲想のイメージについて表現する。

個別学習

### 視点2 曲想イメージの表現

学習カード

- 合唱曲の曲想について全員で学習カードに記入し、本時のねらいと曲想を確認する。



この曲は優しく流れるように歌ったほうがきれいに聴こえると思います。

- 「学習カード」を活用し、自己のイメージを明確にする。
- 同じ声部で相互に聴き合うことで、他者のイメージを理解する。

- 同じ声部を2つに分け、お互いに聴き合う。



今のフレーズのところは、私のイメージとは違ったけれど、歌詞の意味を考えると、この歌い方のほうがすてきです。

〇〇さんが、どうしてそのような曲想をイメージしたのか、とってもわかる気がします。

## ○ 声部ごとに合唱の改善点を話し合う。

形態  
声部別

【コミュニケーション場面】

### 視点1 リーダーを中心とした話し合い

リーダー：私たちのパートは、基本的には主旋律ではないということをふまえて、どうしたらいいか、みんなの考えを聞かせてください。

生徒A：主旋律のパートを引き立たせるように他のパートの歌を聴きながら歌うようにするととてもきれいに聴こえると思います。

生徒B：そうだね、とてもきれいに聞こえています。

リーダー：（楽譜を見ながら）ただ、この部分は私たちのパートが主旋律ですね。

リーダーが中心に、具体的な様々な考えを交流

生徒C：この部分では、私たちのパートはもっと大きく長く伸ばして歌ったほうがいいです。

生徒D：でもここはメゾピアノになっているから、私たちだけ伸ばしたらとび出します。

生徒B：全体のバランスを考えたほうがいいかもしれません。

私たちのパートはどのように歌えばいいか教えてください。



#### コミュニケーションの視点

1. 自分のパート（声部）は曲想にふさわしい表現をしているか。
2. クラス全体の響きは曲想にふさわしい表現ができていないか。

■パートリーダーは、様々な場面を想定し、課題を提示することで、すべての生徒が参加する話し合いとする。



全体のバランスも考えたほうがいいです。

生徒A：あまり大きく歌うと、曲全体のバランスに影響するから、むしろ他のパートに少し弱めに歌ってもらえば、僕たちのパートが引き立つかもしれないですね。伸ばすところは他のパートにも伸ばしてもらいましょう。

そのことは全体に提案しましょう。

リーダー：なるほど、全体の話合いの場面で他のパートに提案してみましょ

全員：そうですね、そうしましょう。

■パートリーダーが、みんなの考えを整理し、納得する内容としてまとめる。



○ 各パートリーダーが改善点について発表し、全体で話し合う。

形態  
全体

【コミュニケーション場面】

視点1 クラス全体の響きを意識した話合い

実行委員：学級全体で素晴らしい合唱曲にしていくため、各パートのよさを生かしながら、どのように歌っていくか、パートリーダーからそれぞれ考えを聞かせてください。

テノール：私たちのパートは、ここのフレーズは主旋律なので、目立たせるために私たちが大きく歌ってもいいのですが、曲全体のバランスが崩れてしまうかもしれません。

バス：なるほど、それぞれのパートで大きく歌ってしまうと後半の盛り上がりが難しくなるから改善が必要ですね。

テノール：テノールは主旋律の最後のところは盛り上げて歌ったほうがいいと思うので、その前は抑え気味に歌うということで、どうでしょうか。

ソプラノ：そうですね。抑えるところや盛り上げるところは指揮者に合わせて歌いましょう。

アルト：そうしましょう!!

実行委員：今出されたポイントを一人一人が意識してもう一度みんなで歌ってみましょう。



各パートに提案します!

■各パートにおける話合いの成果を生かしながら、学級全体として曲想を共有する意識を高めていく。

まとめ

○ 本時の話合い内容を踏まえて合唱する。

○ 自己評価による授業を振り返る。

個別学習

視点2 合唱する楽しさの実感

すべてのパートがそろって、歌っていて楽しいですね!

授業のはじめよりも合唱がすごくよくなりましたね

■「学習カード」を活用し、個人の曲想イメージが学級全体へと広がり、調和のある歌声となるよさを振り返る。

「クラス全体で改善点を確認できたので、合唱がすごくよくなりました。」  
→学習のわういの達成

「他のパートに提案したことが採用され、自信が付きました。」  
→コミュニケーションの成果

「各パートリーダーを中心とした取組で全体でのみんなの考えがまとまり、よい合唱になったと思います。」  
→コミュニケーションの成果



## 本時の成果

- パートリーダーを生かしたコミュニケーションによって、全員がリーダーに協力して進める態度が見られるようになった。
- 「みんなの考え方がまとまり、よい合唱になったと思う。」など、各パートの協力により学級全体として曲想を意識した合唱となった。

## 小集団で考えをまとめる学習コミュニケーション

中学校 第2学年 数学科

単元名「多角形の角」

### 【本時】

#### ねらい

多角形の内角の和や外角の和を三角形の角の性質などを基にして求める。

#### 展開

- 1 多角形の内角の和の求め方を考える
- 2 見通しを立てる
- 3 **グループで考えをまとめる**
- 4 全体に発表する
- 5 まとめる

### 【学習集団の実態】 学習集団の状態①

- ・論理的な会話が苦手で、単語で話す場面もよく見られる。
- ・特定の生徒の発言が多く、全員が発言する機会が少ない。
- ・分からない問題があると、活動が止まってしまうことがある。
- ・本集団は少人数授業の標準クラスであり基本的知識は定着しているが既習事項を生かして解く応用問題に関しては課題がある。

### 目指す生徒像に迫るために

- 自己の考えを明確にし、他者に伝わるよう説明のポイントを整理する。
- 自己と他者との考えの相違点に着目しながら解決方法を話し合う。
- 話し合いが深まるよう4人グループを編成し、グループとしての考えをまとめる。

### 【コミュニケーション場面】

(グループで考えをまとめる)

〈小集団(4人)グループで解法の共有化を図る。〉

#### 生徒A:

三角形が7つできるので  $180^\circ \times 7$  となり  $1260^\circ$  になります。

#### 生徒D:

僕はAさんと同じです。Cさんの考え方ではさらにわけて三角形にできると思います。



#### 生徒B:

三角形が9つでき、真ん中の  $360^\circ$  は余分なので  $180^\circ \times 9 - 360^\circ$  で  $1260^\circ$  になります。

#### 生徒C:

四角形2つと五角形1つに分けて  $360^\circ \times 2 + 540^\circ$  で  $1260^\circ$  です。

### 視点1 解法の共有化

- ・各自の考えのポイントを説明する
- ・各自の考えをグループ内で共有し、グループとしての考えを明確にする。

生徒A: 三角形の数がいくつ分なのかで多角形の内角を出すのはよさそうです。

生徒B: そうですね。例えば九角形は三角形何個分なのかすぐに分かる方法はないですか。私は三角形9つできてしまっただけから  $360^\circ$  引いたんですけど。

生徒C:  $360^\circ$  は三角形2個分だから九角形の時三角形が7つ分です。例えば四角形や五角形を三角形に分けるとどうなるのでしょうか。分かりました!  $\bigcirc$ 角形より2つ少なく三角形ができるみたいです。

生徒D:  $\bigcirc$ 角形は、 $\bigcirc$ から2引くとできる三角形の数が分かります。

生徒A: つまり  $(\bigcirc - 2) \times 180$  で  $\bigcirc$ 角形の内角の和が求められます。

生徒B: ここでは  $(9 - 2) \times 180 = 1260$  になります。

### 本時の成果

グループとしての考え方をまとめる話し合いを行うことにより、他の生徒の考えを共有し考えの相違点に気付くことで、「なるほど  $\bigcirc\bigcirc$ さんの考えの方が解きやすいですね。」など相互に理解を深めようとする態度が見られた。

## 多様な考え方・感じ方を理解し合う学習コミュニケーション

中学校 第2学年 国語科  
単元名「ことばの力」

### 【本時】

#### ねらい

作者像に迫る読み取りを行うことで、ことばの力を知り、古典の継承とは何か考えさせる。

#### 展開

- 1 めあてを確認する
- 2 役割を分担する
- 3 教材文を読む
- 4 班ごとに意見交換する
- 5 全体で発表をする
- 6 まとめる

### 【学習集団の実態】 学習集団の状態②

- ・学力の差や国語への興味の差があり本文からの読み取りや意見の根拠を明示することが苦手な生徒が多い。
- ・特定の生徒の発言が多く、全員が発言する機会が少ない。
- ・班ごとの話し合いの場では、リーダーを中心とした話し合いが進まないことがある。

### 目指す生徒像に迫るために

- 各自が担当する役割（作品範囲）からイメージした作者像をグループ内での話し合い、作品全体を通じた作者像に迫る。
- 各班から同じ範囲を担当した生徒の発表を通して、作者像の受け止め方の背景等に違いがあることに気づき、尊重し合う。

### 【コミュニケーション場面】

（班ごとの意見交換を通して全体での発表）

—各班において同じ範囲を担当した生徒の発表によるコミュニケーション場面—

#### 1班A：

「友とするに悪し者」に「若き人」とあるから、若くはないと思います。  
（叙述表現から）

#### 4班D：

山に関する比喻表現を多く使っているから「山」に住んでいると思います。  
（叙述表現から）

#### 3班C

「一人暮らし」だと思っています。家族がいればもう少し明るい文章を書いていたと思います。  
（生活経験から）



#### 2班B

身分は「高い」と思います。宮廷に仕えていますし、この時代に書物を残せるのはごく一部の人たちだと思います。  
（歴史知識から）

#### 5班E

「身分が高い」のだから一人暮らしはないと思います。  
（歴史知識から）

### 視点2 作者像に迫る多様な考えの共有

- ・多様な考え・感じ方の違いを尊重し受容的に受け止め、作者像の理解につなげる。
- ・作者像という共通課題と各自の役割（担当範囲）との関連を図りながら話し合う。

生徒A：同じ文章を読んでいるのに違う人物像が出てきますね。

生徒B：作者は同じなのに違う人物像を読み取れます。

生徒C：叙述だけでなく、当時の生活常識から推測することもできます。

生徒D：皆の考えを聞いて自分が気付かなかった、観点から考えることができました。

### 本時の成果

全員が自己の役割（作品範囲）をもち作者像を伝え合うことを通して「もう一度考え直してみます。」「やはり〇〇さんの言うとおりにかもしれない。」など他者の考えを参考に関連性を考えながら作者像に迫ることができた。また同じ文章からでもこれまでの知識・経験等から多様な人物像に迫り、他者の意見を尊重し受容的に理解につながった。

## グループ提案を中心とした学習コミュニケーション

中学校 第2学年 学級活動

単元名「自主的な学習態度の形成」

### 【本時】

#### ねらい

家庭学習の方法の発表を聞き、様々な方法を知り、自分に合った方法を見付け、意欲的に家庭学習に取り組む態度を身に付ける。

#### 展開

- 1 目標・活動を確認する
- 2 **教科の学習法についての意見をまとめる**
- 3 発表のために話し合う
- 4 発表し情報を共有する
- 5 自己評価をする

### 【学習集団の実態】 学習集団の状態②

- ・学習に対する意欲は高く集中して授業に取り組むが、全体の場での発表では特定の生徒による、発言や発表が多く、全員が発言する機会が少ない。
- ・班ごとの話し合いの場でも、特定の数名が中心となって、話し合いが進んでしまい、班員全員が話し合いに取り組む姿勢ができず、班全体としての意見が特定な人の意見となってしまうことが多い。

目指す生徒像に迫るために

- グループリーダーを中心に話し合いの手順や分類・整理の観点を明確にする。
- 意見の分類・整理や提示の仕方を工夫することにより、話し合いの過程を視覚的に捉えさせ活発な意見交流が行われるようにする。

### 【コミュニケーション場面】

(教科の学習法についての意見をまとめる)

リーダー：1班では「教科の学習法」がテーマになります。クラス全体でこのテーマについて多くの意見が出ています。それでは、付箋に書かれた意見を、班で協力して整理していきたいと思えます。

生徒A：まず、おおまかにどんな意見があるか調べた方がいいと思えます。

生徒B：賛成です。自分の意見だけでなくクラス全体の意見なので、いろんな意見があると思えますが、分類していったらよいのではないのでしょうか。

リーダー：そうですね。Cさんはどう思えますか？



生徒C：大体よいと思えます。とにかくどんな意見があるかBさんの言うように模造紙の上に、同じ意見、違う意見で分けて模造紙に貼っていただければいいと思えます。

生徒D：では僕が付箋に書いてある意見を読みます。

生徒E：では私が、模造紙に貼っていきます。

リーダー：まとめると、「教科書を読む」「赤シート（暗記シート）」が大多数になります。その他、「実際に作ったり、体験してみたりする」というまとめもあります。このことをクラスに提案していきたいと思えます。いいですか。

全 員：賛成です。

#### 視点1

##### 学習法の分類・整理

- ・各自が行っている家庭学習法について、付箋を参考にグループ内で分類・整理の観点を明確にする。

##### 効果的学習法の提案

- ・他者との意見交流を通して、多様な考え方に接するとともに、生活経験に照らして効果的な学習方法を提案する。

### 本時の成果

分類・整理の観点を明確化を通して、生活経験に照らしたよりよい家庭学習の方法について意見交換が活発になり、クラス全体に考えをまとめ提案することができた。

## 既習事項を生かした学習コミュニケーション

小学校 第5学年 算数科

单元名「分数のたし算とひき算」

### 【本時】

### 【学習集団の実態】 学習集団の状態③

#### ねらい

通分の意味を認めて異分母分数の加法計算の仕方を考え加法計算ができる。

#### 展開

- 1 課題をつかむ
- 2 見通しを立てる
- 3 自力解決をする
- 4 **既習事項を活用し全体で話し合う**
- 5 まとめる

- ・習熟度別の少人数学習集団である。
- ・個々の学習意欲、理解力は高く自分の考えをもち、式、図などの表現を用いて説明することができる。
- ・意見交換はできるが、自分の考えに固執し、他の児童の意見をもとに思考を広げる意欲が足りず、複数の考えから、ものの見方を広げたり考えを深めたりする学習を進めることが求められる。

### 目指す児童像に迫るために

- 結果の見通しを立てやすくさせるため、学習課題の問題点を明確にすることにより、他の考えを受容的に受け止め協同的に課題を解決する。
- それぞれの考えを、既習事項を基に整理・確認し、自己の考えを深める。

### 【コミュニケーション場面】

(既習事項を活用し全体で話し合う)

#### 例題

$$\frac{1}{5} + \frac{1}{2} = \frac{2}{7}$$

を掲示する。

児童A：これは間違っていると思います。

児童B：私も間違っていると思います。

児童C：間違っていると思うのですが、理由はよく分かりません。

教師：ではどうしてそう言えるのでしょうか。誰か分かりますか。

児童B：はい。もし合っているとすれば、例えば  $\frac{1}{3} - \frac{1}{3} = \frac{2}{6}$  になってしまいます。

児童D：  $\frac{1}{2}$  は大きさとしては半分なのだから、たし算をして  $\frac{2}{7}$  のように半分より小さくなることは

数直線や図にすればはっきりすると思います。

児童E：1つ分の大きさがバラバラだと出せないです。

児童F：分数の大きさに着目したらいいかもしれないですね。

児童G：一つ分の大きさをそろえるなら、分母を同じにすれば計算できると思います。

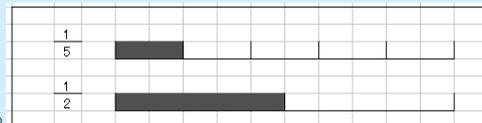
教師：分母をそろえるためにはどうしましょうか。

児童H：通分すればいいと思います。

児童I：最小公倍数は10だから、(5と2を通分して)  $\frac{1}{5} + \frac{1}{2} = \frac{2}{10} + \frac{5}{10} = \frac{7}{10}$  となります。

#### 視点2 解法に向けた考えの明確化

- ・問題点を把握し、既習事項を想起した説明を行う。
- ・既習事項を基に整理・共有化し考えを明確にする。



分母をそろえることが大切です。



### 本時の成果

反証問題を活用して問題点を明確にしたことにより、話し合いの共通基盤がつけられ、分数の大きさに着目するなど既習事項を想起した考えが多く出され課題解決を図ることができた。

# 課題解決の方法を大切にした学習コミュニケーション

小学校 第5学年 算数科

単元名「面積の求め方を考えよう」

## 【本時】

### ねらい

既習の長方形や正方形に変形させることで、三角形の面積を求めることができることが分かる。

### 展開

- 1 課題をつかむ
- 2 見通しを立てる
- 3 自力解決をする
- 4 **共通点を確認し全体で検討する**
- 5 まとめる

## 【学習集団の実態】 学習集団の状態③

- ・レディネステストにより2学級を3つのコースに分けた。
- ・本コースは既習事項の定着度が最も高いコースであり、自力解決できる児童が多い。
- ・友達の考えをよく聞き、分からないところを質問したり、感想を述べたりするなど互いに高め合おうとしている。

### 目指す児童像に迫るために

- 多面的・多角的な視点から、多様な考えを交流し集団として課題解決を図る。
- 全体での話し合いを通して、自己の考えを振り返り、考えを明確にする。

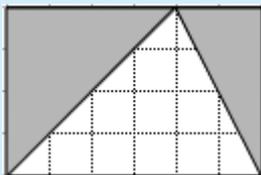


## 【コミュニケーション場面】

(共通点を確認し全体で検討する)

教師：三角形の面積の求め方についての考えを發表しましょう。(多様な考えを出し合う。)

児童A



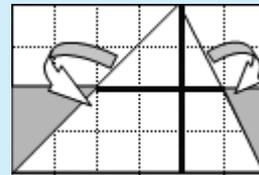
補って長方形にして考えました。

児童B



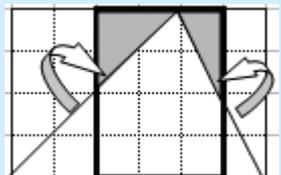
三角形を分割し、2倍にして長方形として考えました。

児童C



三角形の一部を動かして長方形にして考えました。

児童D



Cさんとは違う三角形の一部を動かして考えました。

教師：みんなの考えを聞いてどうですか。

児童A：形を変えて考えています。

教師：形を変えるとはどういうことですか。

児童C：AさんとBさんは大きい長方形にして考えています。

児童D：Bさんは2つに分けそれぞれを2倍にして考えています。

児童B：CさんとDくんは移し変えて考えています。

児童A：三角形を長方形に変えていると思います。

教師：共通していることがありそうですね。

児童C：全部ちがう形だけど長方形にして考えています。

児童B：そうだ。長方形なら面積を求める公式が使えると思います。

児童D：でも、長方形の公式だけで求められるのかな。AさんとBさんは、実際の大きさより大きく考えています。

児童A：長方形の公式で求めた後に、大きくした分を戻したらいいと思います。

児童C：長方形（四角形）の2分の1になります。

### 視点1

#### 解法のポイントの明確化

- ・課題解決の思考過程を分類整理することで、それぞれの考えの共通点や相違点に着目させた話し合いを行う。

### 視点2

#### 解法に向けた考えの整理

- ・自己の考え方・解決方法を振り返り、確認・修正等を行い、理解を深める。

## 本時の成果

多様な考え方を出し合う集団でのコミュニケーションにより「みんなで意見を出し合って、解き方を見つけたので分からなかった問題を解くことができ楽しかったです。」など自己の考えと他者の考えを比較・整理しながら、課題解決を図ることができた。

## 実践のまとめ

### 成果

#### 他者の意見や考えの受容

児童・生徒同士の関わりをより深めるため、児童・生徒同士の関わる機会を増やす小集団を中心に集団を編成した。

各実践では、教師の支援により、児童・生徒が根拠を基に発表したり、大切なポイントを踏まえて説明したりするなど、小集団において他者と積極的に関わり、自分の考えを正確に伝える学習に取り組んできた。このことで、相手の話を最後まで聞くなど、受容的に他者の意見や考えを受け止める児童・生徒の姿が様々な学習場面で見られるようになった。

#### 「学習集団の状態①」の実践から

その考え方のほうが解きやすいですね。その方法で解いてみます。



#### 自己の考えの深まり

みんなと話し合っ、色々な意見がでましたが班として、このようにまとめました。



自己の考えを全体へ広げるため、他者の考えとの共通点や相違点を明確にしなが全体での話し合いを進めるようにした。

各実践では、全体での話し合いに向けて、児童・生徒一人一人が自己の考えを明確にする学習に取り組んできた。児童・生徒が自己の考えを確認・修正・補完するため、他者との対話を取り入れたり、文章で書き表し整理したりする学習を位置付けたことで、自己の考えを幅広い視点から再構築することができ、教科等のねらいにも迫っていった。

#### 「学習集団の状態②」の実践から

#### 集団としての課題解決

小集団における話し合いを踏まえ、全体で解決していくため、協同的に集団の課題を解決していく活動を学習に位置付けた。

各実践では、解決すべき課題を児童・生徒一人一人が自覚することで、集団としての目的意識を高め、互いの知恵や力を結集させる学習に取り組んできた。このことで、自分たちで課題を解決したという達成感をもつことができ、授業以外の時間にも自発的に児童・生徒がコミュニケーションを行う場面が多く見られるようになった。

#### 「学習集団の状態③」の実践から

色々な考え方が出ましたが、一番解きやすい方法は～ですね。



### 課題

- ◆ 学習集団の状態について、分析の方法・時期などをさらに検討し、集団としての変容を適切に評価していく必要がある。
- ◆ 児童・生徒一人一人の力を把握し、個々の課題を明確にすることで、個に応じた指導をより一層充実していく必要がある。

# 生活コミュニケーション部会の研究について

## 研究の基本的な考え

児童・生徒は、様々な集団に属して学校生活を送っているが、基盤となるのは学級である。学校における生活や学習を効果的に展開するためには、学級における集団としての機能を高め、望ましい学級集団を育成する必要がある。

そこで、本部会では、学校における授業以外の日常生活場面におけるコミュニケーションを充実させることにより、よりよい人間関係を築き、望ましい学級集団が形成され、学級における居心地感を高めていくことにつながると考えた。

生活場面におけるコミュニケーションを充実させるためには、まず、教師が学級集団の状態を把握し、学級の状態に応じた、学校の生活場面における指導を構築することが重要である。また、学校の生活場面の多くは、児童・生徒にとって日常生活の実践場面であり、生活場面におけるコミュニケーションの充実を図るためには、個々のコミュニケーションの力を高めていく必要がある。そこで、本部会では、次の視点から、授業との関連を図った活動を構想し、実践を通して検討を行った。

### 生活コミュニケーションの充実

#### 【視点1】

学級集団の状態に応じた、学校の生活場面における指導の手だての構築

#### 【学級集団の状態を把握する手だて】

学級集団の発達段階、Q-U、学級満足度調査

#### 【生活場面における活動の工夫】

登校時、朝の会、休み時間、給食の時間、清掃の時間、帰りの会、下校時、放課後 など

#### 【視点2】

個々のコミュニケーションの力を身に付けるための指導の工夫

#### 【各教科等との関連の明確化】

指導内容との関連  
活動の一体化（指導時期）

#### 【生活場面における指導の手だて】

振り返る視点の明確化  
リーダーの育成  
フォロワーへの働きかけ

生活場面と各教科等の関連

## 学級集団の状態の把握

先行研究「人権教育に関する研究—児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための学級集団の発達段階に応じた指導法の在り方—（東京都教職員研修センター 平成19年3月）」においては、学級集団の発達段階として、右の5段階を設定し、集団の発達段階を踏まえた上で児童・生徒の人間関係を築くことが重要であるとしている。

本部会では、この5段階に基づいて学級集団の状態を明らかにしていくこととした。そして、年間を通じて、現在の学級集団の状態をより高め、よりよい人間関係を築いていくための指導を工夫し、実践を通してその有効性を検証していくこととした。

その際、Q-Uを定期的に行い、児童・生徒の学級満足度と学校生活意欲についての調査結果を基に、学級集団の状態や児童・生徒一人一人の様子の把握に努めた。

#### 1 仲間とのかかわりへの期待

自分の考え方や行動に不安を感じ、他へ依存しながら、周りとかかわりをもとうとしている。

#### 2 気の合う仲間とのかかわり

行動の仕方や好み等、気の合う仲間とグループをつくり、行動を共にする中で、仲間意識を強くしている。

#### 3 異なる考え方の仲間とのかかわり

係や当番等、活動の目的をもった小集団を学級の話し合いを通してつくり、その活動の中で人間関係を広げている。

#### 4 学級全体の仲間とのかかわり

学級担任の指導を基に、自分たちの生活から学級の問題を発見し、主体的に解決しようとしている。

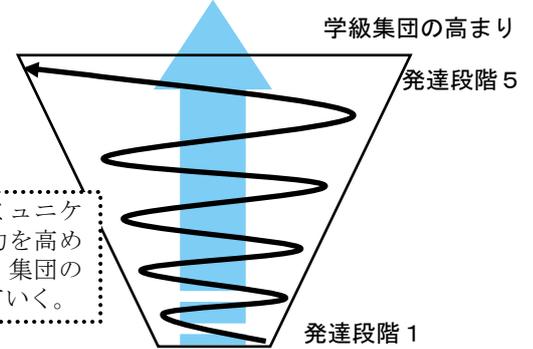
#### 5 学級全体への積極的なかかわり

学級の問題を発見し、その問題の原因や本質に気付く、充実した学級にするため積極的に取り組もうとしている。

## よりよい人間関係の構築へ

さらに、学級満足度調査を定期的に行い、児童・生徒がその結果から自分たちの学級を振り返り、よりよい学級にするための話し合いを行う活動を設定した。

様々な方法を用いて学級集団の状態をより客観的に把握し、育てたい人間関係を明確にしていくことにより、学級の状態に合った指導を行うことができると考えた。



## 生活場面におけるねらい

本部会では、児童・生徒の学校における授業以外の日常的な生活の場면을「生活場面」と捉え、そこでのコミュニケーションに焦点を当て、研究を進めることとした。それぞれの生活場面には次のようなねらいがあると考え、ねらいに即して、よりよい人間関係を築くことができるようコミュニケーションを充実するための活動を工夫した。

生活場面	ねらい	コミュニケーション例
登校時	○基本的な生活習慣や集団や社会のきまりを身に付ける。 ○今日1日を楽しく、主体的に過ごそうとする意欲をもつ。	教室で「おはよう」の声かけなど
朝の会	○今日1日の生活の見通しをもつことで、活動意欲を高め、学級全体で共有する。	スピーチ めあての発表など
休み時間	○児童・生徒が興味・関心を広げ活動する。 ○児童・生徒が自発的に活動する。 ○学校及び学級生活をより楽しく、豊かに送るために必要な活動を行う。 ○学習の準備などを行う。	常時の係活動 学級集会活動の実施・企画 など
給食の時間	○給食の準備から後片付けを通して、望ましい食習慣を体得する。 ○食事を通して、望ましい人間関係の在り方について体得する。 ○心身の健康に関する内容、自然への恩恵などへの感謝、食文化などを理解する。	準備・後片付けの役割分担 食事中の会話 など
清掃の時間	○当番活動の役割や働くことの意義などが十分に理解するとともに、学級や学校に貢献していることを実感する。 ○自分たちの環境を整え、やり終えた心地よさを味わう。	清掃の役割分担 反省会 など
帰りの会	○今日1日の生活を振り返ることで、達成感や成就感を味わい、明日への意欲をもつ。	めあての振り返り 友達のよさを見付け、伝え合う活動 など
下校時	○基本的な生活習慣や集団や社会のきまりを身に付ける。 ○明日も楽しく、主体的に過ごそうとする意欲をもつ。	一人一人と握手しながらの挨拶など
放課後	○児童・生徒が興味・関心に応じて活動する。 ○児童・生徒が自発的に活動する。 ○学校及び学級生活をより楽しく、豊かに送るために必要な活動を行う。	常時の係活動 学級集会活動の企画 など

## 生活場面における指導のポイント

生活場面において個々のコミュニケーションの力を身に付けさせるためには、教師の意図的・継続的な指導が重要である。そこで、特に、生活場面における自己及び集団の行動を振り返る活動や、生活場面における活動のリーダーの育成及びフォロワーへの働きかけに重点を置いて研究を進めた。

観 点	指導のポイント
振り返る視点の明確化	<p>【自己の振り返り】…「振り返りカード」「活動後のアンケート」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動及び努力の成果、意欲の高まりについて振り返り、評価をする。</li> </ul> <p>【集団についての振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>…「活動後のアンケート」「学級満足度調査」など</li> <li>・学級集団の状態の高まりについて振り返り、評価をする。</li> </ul>
リーダーの育成 フォロワーへの働きかけ	<p>【役割分担、役割交代、役割遂行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が役割をもち、責任を果たし、協力して活動が行えるようにする。</li> <li>・学級全員が何らかの役割を分担し、学級の一員として認められ、みんなから必要とされているという認識をもつなど自己有用感や仲間と共に活動しているという充実感がもてるようにする。</li> </ul>

## 生活場面と各教科等との関連を明確にする必要性

学校における生活場面では、児童・生徒にとっては、授業と比べありのままの姿を出しやすい状態におかれている。児童・生徒相互の人間関係をより高めていくために、生活場面と各教科等との関連を図っていくことがコミュニケーションの充実につながると考えた。また、各教科等において個々のコミュニケーションの力を身に付けるために、意図的・計画的な指導を行う必要があると考えた。

本部会では、児童・生徒の日常生活やよりよい人間関係の形成と深く関わっていると考えられる道徳及び特別活動、コミュニケーションに欠かせない言葉の力を育む国語に重点を置き、生活場面との関連を明確にする必要があると考えた。

道徳、特別活動及び国語における生活場面との関連を図るポイントは次のとおりである。

各教科等	生活場面と関連を図るポイント
道 徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の生き方についての考えを深め、日常生活における道徳的実践の指導の充実を図る。</li> <li>○特に、「1 主として自分自身に関すること」、「2 主として他の人とのかかわりに関すること」、「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容項目と関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり、内容の一部を関連付けたりして、学級の状態に応じた適切な指導を行う。</li> <li>○学校の様々な生活場面において経験した道徳的行為や道徳的実践について、道徳の時間に取り上げ、学級の児童・生徒全体でその道徳的意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていく。</li> <li>○道徳の時間での指導が、生活場面の中に生かされ、具体的な実践や体験が行われることによって、道徳的実践力と道徳的実践との有機的な関連を図る指導を効果的に行う。</li> </ul>
特別活動 (学級活動) <small>本研究では、学級を単位として行われる「学級活動」を中心に取り上げる。</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践活動や体験的な活動を通し、現在及び将来にわたって希望や目標をもって生きることについてや、他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深め、集団の一員としての望ましい認識をもてるようにする。</li> <li>○特に、次の活動内容に重点を置き、関連を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校における生活上の諸問題の解決 楽しい学級にするための様々な内容、充実した学級生活を送るためのきまりや創意工夫などについて話し合う活動</li> <li>・望ましい人間関係の形成・確立 望ましい人間関係に関する指導 社会的スキルを身に付けるための活動</li> </ul> </li> </ul>
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語による表現力と理解力とを育成する。</li> <li>○人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。</li> </ul>

## 実践事例について

実践事例	学級集団の状態	目指す人間関係	視点1 学級集団の状態に応じた、学校の生活場面における指導の手だての構築	視点2 個々のコミュニケーションの力を身に付けるための指導の工夫
【小学校第4学年】 「相互受容」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション	2～3 気の合う仲間における意識を強くもっている	相互受容 相手の考えを肯定的に受け止め合う関係	【生活場面における活動の工夫】 朝の会 「学級のめあてを発表する活動」 帰りの会 「友達のよさを見付け、伝え合う活動」	【各教科等との関連の明確化】 道徳 「自分の気持ちを伝える」 1－(3) 「友達のよさを知る」 2－(3) 学級活動 「ことばの使い方を考えよう」 (2)－ウ 【生活場面における指導の手だて】 振り返る視点の明確化
【小学校第5学年】 「相互理解」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション	3 係や当番等、活動の目的をもった小集団の中で人間関係を広げようとしている	相互理解 互いのよさや違いを共感的に理解し合う関係	【生活場面における活動の工夫】 休み時間 「自主的な係活動」 朝の会 「係からの連絡や発表」	【各教科等との関連の明確化】 国語 「自分で考えをまとめ、討論する活動」 道徳 「男女が理解し合う心」 2－(3) 学級活動 「学級を振り返り、よりよい学級にしていこう」 (1)－ア 【生活場面における指導の手だて】 振り返る視点の明確化 リーダーの育成
【中学校第1学年】 「相互協力」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション	4 自分たちの生活における学級の問題を発見し、主体的に解決しようとしている	相互協力 互いのよさを生かし合い、助け合い、協力し合う関係	【生活場面における活動の工夫】 休み時間・放課後 「自主的・自発的なグループによる話し合い活動」 (学級レクの企画)	【各教科等との関連の明確化】 学級活動 「学級に課題に対する改善策を考えよう」 (1)－ア 道徳 「相手の立場を考えて」 2－(1) 【生活場面における指導の手だて】 振り返る視点の明確化 リーダーの育成 フォロワーへの働きかけ
【中学校】 「相互理解」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション	通級指導学級	相互理解 互いのよさや違いを共感的に理解し合う関係	【生活場面における活動の工夫】 給食の時間、清掃の時間 「当番活動」	【各教科等との関連の明確化】 学級活動 「トラブルの解決策を考えよう」(2)－オ 自立活動 「相手の気持ちを考えよう」 3－(2) 【生活場面における指導の手だて】 リーダーの育成

## 実践事例1【小学校第4学年】

# 「相互受容」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション

★取り上げた生活場面 朝の会・帰りの会

★関連を図った各教科等 道徳・学級活動

## 学級集団の状態

男女関係なく、互いに助け合い、励まし合ってほしい。

互いによいところを認め合える学級にしたい。



気の合う仲間への関わりは多く見られるが、異なる考え方の仲間とはあまり関わろうとしない傾向である。係活動や遊びなど仲良く過ごしているが、「男だから」「女だから」とこだわりをもつ場面も見られる。

学校生活において、互いによいところを認め合う活動を重視し、助け合い励まし合うことのできる学級づくりを目指していきたい。

## 育てたい人間関係

### 【相互受容】

互いのおよさを認め合い、肯定的に受け止める関係を形成する。

中学年においては、楽しい学級生活をつくるために、相手のことを思いやって話し合ったり言動したりすること、時には自分の考えを通すのではなくがまんすること、誰にでもよいところがあり、それらを認め合うことができるようにすることが大切である。

児童が自分や他者を価値ある存在と認め受け入れるようになるためには、自分と他者のもつ多様なよさを知る場や機会が必要である。そして、そのよさを価値あるものとして受け入れ合うことの大切さに気付かせ、多様性を受容しようとする態度を育てることが重要である。このような指導を進めることで、自分に対する理解と自信をもって他者と関わり、さらに他者を肯定的に受け止めようとするようになり、児童一人一人にとっての学級集団が「居場所としての学級」になっていくと考えられる。

そこで、朝の会・帰りの会の場面を取り上げ、思いを共有したり、互いに認め合ったりする活動を位置付け、道徳及び学級活動との関連を図った指導を行った。

## 生活場面における活動の工夫

朝及び帰りの会において、活動のねらいを次のように設定し、年間を通して継続的に取り組んだ。

思いを共有したり、互いに認め合ったりすることでよりよい人間関係をつくる

### 朝の会「スピーチ」

自己表現、児童相互の理解及び交流を図る活動

#### 【ねらい】

自分のことや興味ある事柄について話し、互いの理解を図る。

私は、昨日新体操の練習をがんばりました。

1日に何時間くらい練習していますか。



スピーチの後、質問や感想を伝えます。

### 朝の会「今日のめあて」

学級のめあてを発表する活動

#### 【ねらい】

今日1日を大切に過ごす意識を一人一人の児童にもたせるとともに、学級全体で共有しようとする態度を育てる。

### 帰りの会「友達のよいところ」

互いのおよさを見付け、伝え合う活動

#### 【ねらい】

友達の行動や態度のよさを伝え合い、児童相互が互いのおよさを認め合おうとする態度を育てる。

友達のよいところを発表してください。

〇〇さんは、今日のめあてについてがんばっていました。



友達のよさをカードに書き、発表し合います。

## 各教科等との関連

本実践では、朝及び帰りの会における思いや願いを学級全体で共有する活動や互いのよさを認め合う活動と道徳及び学級活動における指導内容との関連を図ることに重点を置いた。児童相互の人間関係の深まりに応じ、年間を見通して段階的な指導を計画するように配慮した。

- 道徳** ★日常生活を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることのできる資料を選定する。  
★自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにする。
- 学級活動** ★社会的スキルを身に付ける活動を設定する。  
★互いのよさを認め合うことができる相互関係をつくる。

### 正しいと思うことは勇気をもって行う態度を育てる

#### 【生活場面との関連】

- ★生活場面でなかなか勇気を出せない事例を自分のこととして捉えさせ、勇気をもつことの大切さについて日常生活に生かすことができるようにする。
- ★勇気について深く考え、道徳的な実践力を育成する。

#### 道徳 「自分の気持ちを伝える」 1－(3)

##### 【ねらい】

自分の経験を振り返り、正しいと思うことは勇気をもって行う態度を育てる。

##### 【資料名】「勝手に決めないで！」

主人公の「わたし」が、人のことでは勇気を出せなかったが、自分が追い詰められることによって勇気を絞り出していき、日常のトラブルを「ひとごと」ではなく、自分のこととして考えられるようにする内容である。

### 言葉の使い方を考え、自分の生活における人間関係づくりの力を高める

#### 【生活場面との関連】

- ★生活場面におけるトラブルの例を取り上げ、日常生活と関連付ける。
- ★正しい「言葉の使い方」を学級で共有し、日々の実践化を図る。

#### 学級活動 「ことばの使い方を考えよう」(2)－ウ

##### 【ねらい】

相手に理解してもらうためには、相手のことを考えながら自分の考えを分かりやすく伝える必要があることに気付く。

##### 【内容】

人間関係を形成するための言葉遣いについて、学級で話し合い、ロールプレイングを通して日々の実践に生かすことができるようにする。

### 友達のよさを認め合い、助け合おうとする心情を育てる

#### 【生活場面との関連】

- ★帰りの会で取り組んでいる「友達のよいところ」カードを活用し、日常生活を振り返る。
- ★友達のよさについて深く考え、近い将来における日々の実践力を育成する。

#### 道徳 「友達のよさを知る」 2－(3)

##### 【ねらい】

友達と互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。

##### 【資料名】「ぼくらだってオーケストラ」

4年生が連合音楽会に参加することになり、楽器の苦手なつおは、リコーダーの担当となる。上手に吹けないつおに、なつみが親切に教える。そのことに抵抗があるつおは、知らんぷりするが、いつの間になつみの心が分かるようになるという内容である。

実践の場面

実践の場面

# 生活場面における活動の工夫

思いを共有したり、互いに認め合ったりすることで、よりよい人間関係をつくる

朝の会では、他者との関わりの中で、今日1日を楽しく過ごすとする意欲をもたせることが大切である。また、帰りの会では、1日を振り返り、明日からの生活をよりよくしていこうとする意欲をもたせることが大切である。

本学級では、朝及び帰りの会について、右のような流れで行った。学習予定などの連絡のみではなく、朝の会では、「スピーチ」及び「今日1日のめあて」を発表する活動、帰りの会では、「友達のよいところ」を伝え合う活動に重点を置き、年間を通して継続的に取り組んだ。

友達の話、1日のめあて、友達のよさなどを学級全体で共有することで、互いをより意識して生活できるようになり、学校生活におけるコミュニケーションの充実が図られ、相互受容の人間関係が形成されると考えた。

## 朝の会 「スピーチ」

自己表現することで、これまで気付かなかった友達の思いや考えを知る

毎日交替で学級全員が自分のことや興味ある事柄について話し、互いの理解を図ることができるようにする。限られた時間のスピーチではあるが、友達からの質問や感想により内容が深まり、スピーチをした児童の人柄や考えを知る良い機会となり、互いの理解が深まる大事な場となっていく。

## 朝の会 「今日のめあて」

学級全員で、めあてに向かってがんばろうとする意欲をもつ

学級全員で今日1日のめあてを確認し、めあて達成に向け全員で取り組んでいこうとする気持ちを高める。

### 朝の会

- 1 あいさつ
- 2 元気調べ（健康観察）
- 3 今日の予定
- 4 **スピーチ**
- 5 **今日のめあて**
- 6 先生からのお話

### 帰りの会

- 1 明日の予定
- 2 **友達のよいところ**
- 3 めあての振り返り
- 4 先生からのお話
- 5 あいさつ

昨日、Bさんの家の前で、男の子3人と一緒に鬼ごっこや缶けりをして遊びました。…略…寒かったけど、楽しかったです。

缶けりは、誰が強かったですか。

質問や感想はありますか。



### 「めあてを発表する」活動

事前に日直同士で話し合っただけめあてを発表し、全員でめあてを共有する。

今日のめあては、「……」です。

このめあてにした理由は、……だからです。

昨日のみなさんの生活を振り返って、今日のめあてが立てられましたね。



### 教師の支援

#### 【ポイント】

★事前にめあてを設定する話合いの際、学級全体を客観的に見てどのようなめあてを設定したらよいかという視点で助言する。

#### 振り返りの視点

- ・前日までの生活の振り返り
- ・各教科等での学習内容
- ・学級の課題
- ・学校行事
- ・学校の月目標・生活指導における目標

★めあてを発表する際、理由も併せて説明し、学級全員で確認できるようにする。

★めあてについて、教師の話による価値付けを行う。

## 帰りの会 「友達のよいところ」

### 友達のよさを伝え合い、児童相互が互いのよさを認め合う

1日の学級生活を通して、自己の生活を振り返るとともに友達の生活にも目を向け、これからの学級生活に生かすことができるようにする。

#### 「友達のよいところ」を伝え合う活動

○友達のよいところをカードに書く。



○友達のよいところを発表し合う。

友達のよいところが見つけられるようになってきましたね。友達の行動や言葉でよいと思ったところを探してみましょう。



〇〇さんが、自分から進んで本棚の本を整理していました。

今日のめあてに向かって、友達同士で協力できたので、たくさんの方がめあてを達成できました。

今日のお楽しみ会では、みんなまで協力できました！



友達の気持ちを考えて言葉をかけてあげていたのでですね。

友達の行動や態度、友達の言葉についてのよいところをたくさん見つけられ、よい人間関係が築けるようになりました。

#### 教師の支援

##### 【ポイント】

- ★学級全体で共有させたい友達のよさを書いている児童を意図的に指名できるよう机間指導を行う。
- ★友達への意識をもてるようにするため、よいところを見付ける対象児童を示す。

##### 振り返りの視点

- ・隣の席の友達
- ・同じ生活班の友達
- ・学習班の友達
- ★友達の行動、態度、言葉のよいところについて発表している児童を賞賛する。

##### 振り返りの視点

- ・友達の言動
- ・感動を受けた事柄
- ★友達のよさを共有する機会を設定する。



相手に気持ちが伝わるような言葉を使うことが大切だと気付きました。

男女関係なくよい言葉やよい行動を見付け合うことができました。

- ★学級活動で児童自ら「友達のよいところカード」を分類し、色分けして掲示することで、学級全体で共有できた。その結果、児童はより相手に関心を持ち、言葉を大切にするようになり、よりよい関係をもてるようになった。

身近な友達との関わり

学級全体への関わり

# 各教科等との関連

## 学級活動 「言葉の使い方を考えよう」

### 言葉の使い方を考え、自分の生活における人間関係づくりに活用する

#### (1) 授業のねらい

相手に理解してもらうためには、相手のことを考えながら自分の考えを分かりやすく伝える必要があることに気付く。

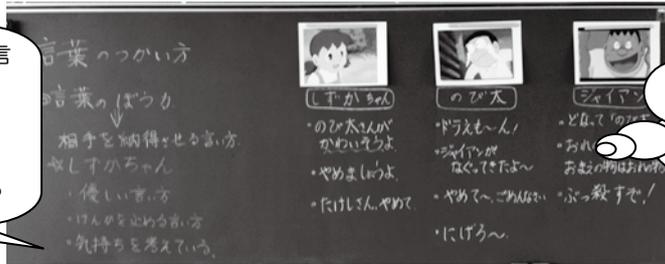
#### (2) 授業の展開

##### 1 「しずかちゃん」、「のび太」、「ジャイアン」がどのような話し方をするか考え、発表する。

自分の気持ちを伝えるための言葉の使い方についてまとめます。

##### 「言葉の使い方」

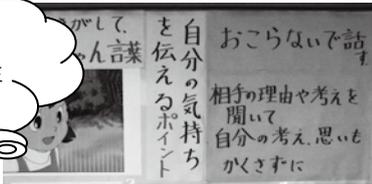
- ・相手のことを尊重する
- ・優しい口調
- ・自分の意見をはっきり伝える



「しずかちゃん」の話し方や言葉の使い方は、相手の心に届きやすいと思う。その特徴を考えてみよう。

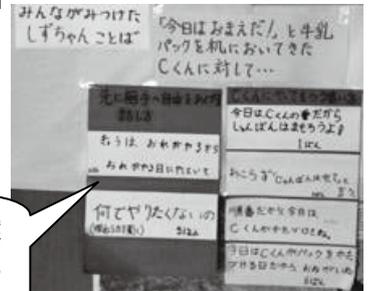
##### 2 学んだことを学級全体で共有する。

「しずかちゃん言葉」をいつも心がけて、生活したいと思います。



##### 3 学級内で起きた問題を解決する機会を設け、コミュニケーションに適した言葉の使い方を学ぶ。

学級内で起きた問題を振り返り、学級全員で解決に向けて話し合い、自分たちで解決できる力を身に付けるようにします。



## 道徳 「友達のよさを知る」

### 友達のよさを認め合い、助け合おうとする心情を育て、日常生活につなげる

道徳の授業において、男女関係なく互いに認め合いながら、助け合い励まし合うことの大切さを考えさせたいと考えた。今回の資料の登場人物の気持ちに深く共感させるために、「心のバロメーター」を活用したり、帰りの会で取り組んでいる「友達のよいところ」カードを示したりして、友情を高めていこうとする心情を育てることに結び付けていく。

#### (1) 授業のねらい

友達と互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。

#### (2) 授業の展開

##### 1 よい友達であるためには、どのようなことが大切かについて考える。

どんなよいところを見つけているのか、分かりやすくなりました。



「友達のよいところ」を分けてみて、気付いたことはありますか。

なつみさんにいろいろ教えてもらったから、今度は恩返ししたいな。

##### 2 資料を読み、てつおの気持ちの変化を考え、話し合う。

「逆上がりを教えてあげようかな」と思ったてつおはなつみにどんな気持ちをもつようになったでしょう。



##### 3 男女が互いに助け合い、励まし合った経験について話し合う。

今まで友達のよい行動やよい言葉を見つけてきました。一番好きな行動や言葉について話し合ってみましょう。



##### 4 教師から、「友達のよいところ」の活動への取り組みの様子について話す。

体育のポートボールでは、友達のよいところ、チームのよいところに気付く人が増えてきましたね。



## 本実践の成果

### (1) 休み時間・清掃の時間における活動の様子について

#### 「めあてを発表する」活動の継続により、めあての実践へ

ある日の朝の会で、「さそい合ってなかよく遊ぼう」というめあてが発表された。チャイムの直後、ある男子児童が「〇〇ちゃんも一緒にバスケットボールやろうよ。」と声をかけると、「いいよ。」「わたしも入れて。」と、元気に男女仲良く遊んでいる姿が見られた。「めあてを発表する」活動を毎日継続することで、めあての意識化が図られ、実践力に結び付いていった。

#### 「気持ちの伝え方」の学習により、よい人間関係の形成へ

掃除の時間に、掃除のやり方について友達同士でトラブルが起きた。「何で僕が聞いているのに返事しないんだよ!」「…だって、バカっていわれるのがいやだったんだもん。」「さっきの僕の言い方が悪かった。ごめんね。」という会話が見られた。学級活動において意図的・計画的に、「気持ちの伝え方」について学習するとともに、教室掲示の工夫により、常に意識化を図ることで気持ちの伝え方や話し方に気を付けて生活しようとする児童が増えた。

### (2) 学級集団の状態の高まりについて

#### 学級満足度調査結果の活用で、学級の課題・改善策の共有へ

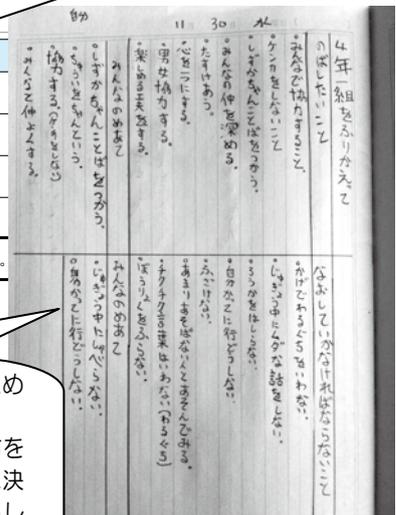
児童が記述したコメントから、学級のよいところや課題を、教師や他の児童が把握できます。

4年1組 学級満足度アンケート 結果

クラス番号ではありません	7月	11月	12月	名前	コメント
1	65	67	75		言葉づかいもちろん、「仲間はすれ」「むし」をやめてほしい
2	50	70	40		女子の中で仲間はすれが増えた。いろいろな人と遊びたい。
3	55	95	99		心を一つにできたけど、チクチク言葉や物がこわれた所があった。
4	90	99	97		このごろけんかも多いからけんかをやめたほうがいい
5	90	95	97		何をやるかを決めるのはうまくいった。でも準備でちょっとだけけんかをしてしまった。
6	98	97	99		みんなて協力できた。でもけんかや悪口をいっていた。
			58		思いやりがあってやさしいけど、注意するときに言い方がきつ

学級満足度調査では、まず、「どんな学級だったら100点か」ということについて学級全体で話し合い、共有化を図りました。その上で、現在の学級は何点になるか、理由も記述するようにしました。

学級満足度調査の結果を基に、よりよい学級にするために取り組んでいきたいことについて話し合いました。「協力する」、「きちんと注意する」、「気持ちの伝え方を考えて話す」、「自分勝手に行動しない」などのめあてに決まりました。学級全体で課題を共有し、改善方法を見出したことで、学級集団の状態が高まってきました。



#### 個々のコミュニケーションの力の向上により、居心地のよい学級へ

道徳や学級活動の時間に、個々のコミュニケーションの力を高める指導を意図的・継続的に位置付けたことで、日頃からのコミュニケーションが豊かになり、学級における居心地感が高まっている様子が見られた。



「お誕生日会」では、「お誕生日おめでとう」「ありがとう」などと、温かい言葉を掛け合い、笑顔あふれるひとときとなりました。



「遊び大会」では、各自がめあて達成に向けて取り組みました。一日中笑顔が絶えない学級となりました。

## 今後の課題

- 本実践では道徳及び学級活動との関連を図った実践を行った。生活場面におけるねらいを踏まえた上で効果的な活動を設定し、各教科等の関連を図った年間指導計画を作成していく必要がある。
- 生活場面におけるコミュニケーションの力の向上について客観的に評価することができるよう、評価の観点を精選した上で学級満足度調査等の振り返る活動を行っていく必要がある。

## 実践事例2【小学校第5学年】

# 「相互理解」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション

★取り上げた生活場面 休み時間

★関連を図った各教科等 国語・道徳・学級活動

## 学級集団の状態

自分の思いや考えを伝え合い、学級の課題を自分たちで解決できるようになってほしい。

言葉を大切にしてい、人と関わることは楽しいと感じられるようになってほしい。



気の合う仲間への関わりは多く見られるが、人間関係を築くことを苦手としている児童が多い。「遊び係」の児童を中心に学級全員で遊ぶ姿は見られるが、トラブルも多い。

そこで、自分たちで話し合って係の組織をつくり、自主的に行う活動である係活動に重点を置き、友達との関わりを広げ深められる学級づくりを目指していきたい。

## 育てたい人間関係

### 【相互理解】

互いのよさや違いを共感的に理解し合う関係を形成する。

高学年においては、楽しく豊かな学校生活をつくるために、男女など互いのよさを認め合ったり生かし合ったりするなど支え合うこと、誰に対しても差別や偏見をもつことなく相手の立場に立って考えたり行動したりすること、多様な意見を大切に話し合うことが大切である。

児童が他者と関係を結び、互いに理解し合う関係を育てるためには、他者の興味・関心、態度、行動様式等の理解を図る中で、児童に他者への親しみを感じ取らせ、他者の態度や行動が予測できないことに対する不安を軽減させることが重要である。また、他者の考えを自分の思いや考えの共通点や相違点と比較しながら聞き、話し合いを進めることが大切である。このような指導を進める中で、児童は安心して他者と本音で語り合い、他者とかかわる楽しさや喜びを感得することができる。

そこで、休み時間における係活動を自主的に進められるようにし、国語、道徳及び学級活動との関連を図った指導を行った。

## 生活場面における活動の工夫

休み時間における係活動のねらいを次のように設定し、年間を通して継続的に取り組んだ。

学級生活を豊かにする係活動を行うことで、信頼し支え合う人間関係をつくる

### 休み時間「係活動」

児童の創意工夫を生かし自主的に進める係活動

#### 【ねらい】

自分のよさを積極的に生かせる係に所属し、責任をもって活動が継続できるようにする。

毎週木曜日の休み時間に集まって、みんなで係の仕事をしよう。

委員会の仕事もあるけど、係の仕事はいつできるかな。



教師の指導に頼ることなく自主的に係活動を進めることができるようにします。

### 朝の会「係からの連絡や発表」

係活動の内容や要望などを伝え合う活動

#### 【ねらい】

係からの連絡を伝えたり活動内容について発表したりする機会を設定し、係活動の活性化を図る。

係からのお願いや連絡はありますか。

新聞を発行するため、インタビューに協力してください。



係からの連絡や活動内容を伝え合い、各係の活動状況を知る機会となるようにします。

## 各教科等との関連

本実践では、休み時間の自主的な係活動と国語、道徳及び学級活動における指導内容との関連を図ることに重点を置いた。特に、国語科で学習したことを日常の生活場面や各教科等の授業における話し合い活動で生かすことができるようにした。また、学級活動において、日常の学級生活を振り返る活動を、年間を通して意図的・計画的に位置付けた。

- 国語** ★「豊かな言葉の使い手」になるための目標をもつことにより、日常生活に広げることができるようにする。
- ★よりよい討論を行うための言葉遣い、態度を育てる。
- 道徳** ★男女互いに理解し合い、協力し合おうとする心情を育てる。
- 学級活動** ★係活動を振り返り、改善につなげる機会を設定する。

### 自分の考えをまとめて、討論を行い、考えを広げたり深めたりする

#### 【生活場面との関連】

- ★討論を通して、友達の意見を聞き、交流することで、自分の考えを深めることができることを意識付ける。
- ★日常生活の様々な場面を思い起こし、自分の言葉遣いや話し合いについて振り返る。

#### 国語 「豊かな言葉の使い手になるためには」

##### 【ねらい】

豊かな言葉の使い手になるために、自分の考えをまとめ、討論を行い、考えを広げたり深めたりする。

##### 【内容】

- 課題について調べ、自分の考えをまとめる。
- 討論の進め方を理解し、討論を行う。
- 討論を通して、自分の考えを再構築する。

### 互いに信頼し、男女仲よく協力し助け合おうとする心情を育てる

#### 【生活場面との関連】

- ★男女の違いを理解し合い、日常生活における係活動や当番活動に生かす。
- ★男女が分かり合えてよかった点について、振り返る場を設定していく。

#### 道徳 「男女が理解し合う心」 2－（3）

##### 【ねらい】

男女互いに理解し合って友情を育て、協力しようとする心情を育てる。

##### 【資料名】「心のレシーブ」

男女混合チームでソフトバレーボール大会に出場することになった陽子と幸世。試合に負けてしまうが、運動が苦手な男子メンバーの直希と良夫が練習に励んでいたことを試合後に知るという内容である。

### 日常の学級生活を振り返り、よりよい学級生活にするため自分にできることを考える

#### 【生活場面との関連】

- ★学級生活について振り返る視点を示すことで、自分の考えを明確にもてるようにする。
- ★全員で決めたよりよい学級にするための改善策を教室に掲示し、意識化を図るとともに振り返る場を設定する。

#### 学級活動 「学級を振り返り、よりよい学級にしていこう」 （1）－イ

##### 【ねらい】

今までの学級生活を振り返り、学級のよさや課題に気づき、よりよい学級にするための方法を考える。

##### 【内容】

学級のよさや課題について話し合い、互いに意見を出し合いながらよりよい学級にするために全員で取り組んでいくことを考え、共有する。

実践の場面

実践の場面

## 生活場面における活動の工夫

### 学級生活を豊かにする係活動を行うことで、信頼し支え合う人間関係をつくる

休み時間は、児童にとって興味・関心を広げたり、自主的に活動したりすることのできる時間である。児童がより有意義な休み時間を過ごし、友達や学級のために役立っている喜びを感じることができるようにすることが大切である。

そこで、児童が休み時間に自主的に係活動に取り組むことができるよう、学級活動において、学級生活をより楽しく豊かにするための係活動を組織し、活動内容について話し合った。

#### 学級活動「係を決めよう」

##### 【ねらい】

学級生活を豊かにする係活動を組織し、計画的に活動に取り組むために必要なことについて話し合う。

○学級に必要な係について話し合う。



どんな係があつたらみんなが楽しくなるかな。

○係活動を組織する。

○係活動の計画を立てる。

#### 教師の支援

##### 【ポイント】

★係活動は、当番活動と違い「魅力あるクラス」をつくるために学級になくってはならないものという意識をもたせるよう助言する。

##### 振り返りの視点

- ・中学年までの取組や前期の係の経験
- ・自分たちの学校生活の充実と向上を目指した児童の願いや思い

★自分のよさを積極的に生かせる係に所属し、責任をもって活動を継続できるようにする。

★計画的に活動できるよう、「いつ」「何をするのか」「次はどうするか」など見通しをもたせる。

## 休み時間における日常の係活動

係を組織した後は、友達同士互いに声を掛け合い活動し、学級の役に立ったという自己有用感もてるよう、教師が各係の取組状況を把握し、円滑に活動できるよう助言していく。また、児童一人一人が係活動の楽しさを味わうことができるよう、自主的に活動している係を学級で紹介したり、定期的に短時間で振り返りをさせたりしながら次の活動へつなげていく。

#### 「新ハッピー・夢新聞係」の活動

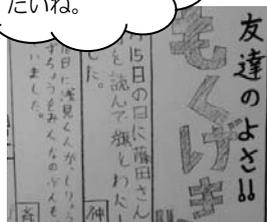
○学級新聞を作成し、発行する。

どんな記事にしようか。



学級のよいところを伝えたいね。

○朝の会などで、発行したことを連絡する。



#### 教師の支援

##### 【ポイント】

★児童の興味・関心のあることだけでなく、清掃や休み時間の様子など学級全体に係わる話題を設定するよう助言する。

★必要に応じて取材活動を行い、友達と関わる機会を意図的に設定する。

★発行した新聞について教師は必ず話題にし、学級のよさや課題などについて意識化を図る。

### 「みんなで楽しく遊ぼうデー係」の活動

○定期的に休み時間に学級全員で遊ぶ機会を設定し、企画・運営を行う。

みんなが楽しめる遊びのアンケートをとろうよ。



もっとみんなが楽しめるように、ルールを工夫しよう。

### 教師の支援

#### 【ポイント】

★今までの遊びを振り返り、仲良く楽しく遊べる内容を考えるよう助言する。

#### 振り返りの視点

- ・ドッジボール・鬼遊びなどの運動におけるルールやチーム編成の工夫
- ・友達の興味・関心を生かす工夫

★朝の会で遊びの内容やルール等を紹介し、学級全員で楽しく遊べるようにする。

### 「連絡めあてかくかく係」の活動

○今日1日を振り返り、学級の課題などについて話し合い、教室後ろの黒板にめあてを書く。



今日は友達同士のトラブルが多かったね。だから……

○翌日の朝の会で「クラスのめあて」を発表し、全員でめあてを共有する。

○帰りの会でめあてについて振り返る。

### 教師の支援

#### 【ポイント】

★めあてを設定する話し合いに教師も参加し、学級全体を客観的に見てどのようなめあてを設定したらよいかという視点で助言する。

★帰りの会で「めあての振り返り」を行い、表に記入し意識化を図る。

「振り返り表」を掲示し、めあてについて意識化を図ることができるようにします。

## 朝の会「係からの連絡や発表」

### 係の活動状況を互いに伝え合うことで、さらにがんばろうとする意欲をもつ

朝の会において、各係から連絡したり、活動内容について発表したりする機会を設定した。各係の活動状況を互いに知ることで、より意欲的に係活動に取り組むことができるようにしたいと考えた。

### 「係からの連絡や発表」活動

係・委員会からの連絡や活動内容についての発表を行う。

今日の中休みは「学級遊び」です。



今後のために、どんな遊びがよいかアンケートに協力してください。

### 教師の支援

#### 【ポイント】

★前日までに、計画どおりに係活動が行われているか教師が確認して、朝の会の発表内容及び方法について必要に応じて助言する。

★係からの連絡等を互いに伝え合うことで、活動内容がより創意工夫あるものになっていくことに気付くことができるようにする。

## 各教科等との関連

### 国語「豊かな言葉の使い手になるためには」

#### 自分の考えをまとめて討論を行い、考えを広げたり深めたりする

##### (1) 授業のねらい

豊かな言葉の使い手になるために、自分の考えをまとめ、討論を行い、考えを広げたり深めたりする。

##### (2) 授業の展開

1 中心となる教材文「豊かな言葉の使い手になるために」を読み、自分の考えをまとめる。

2 討論の進め方、自分の考えの正確かつ効果的な伝え方について学習する。



相手の気持ちを考えないで言うことは豊かではないと思う。

尋ねられたことに笑顔できちんと答えることは豊かだと思う。

3 グループ討論を行い、討論の仕方のよかったところをメモし、伝え合う。



発言の仕方や、討論の仕方がよかったところなどをメモしながら聞くようにします。

- グループ討論の進め方
- ① 司会を決める。
  - ② 討論の話題を確認し、一人ずつ自分の考えを発表する。
  - ③ たがいの考えについて質問したりそれに答えたりする。
  - ④ たがいの考えについて意見がかわす。
  - ⑤ 最後に、司会が、どのような意見が出たかをまとめる。

意見を先に、理由を後に話す。  
自分の考えの理由として、調べたことを伝える。  
自分の立場を明確にして話す。  
自分が調べたこととつなげて話す。  
疑問や反論を分かりやすく伝える。  
具体的な事柄を挙げて質問する。  
司会者は、複数の考えの明瞭にしているところとちがうところを明確にしながらか話を進める。

### 学級活動「学級を振り返り、よりよい学級にしていこう」

#### 学級のよさと課題について話し合い、よりよい学級をつくらうとする意識を高める

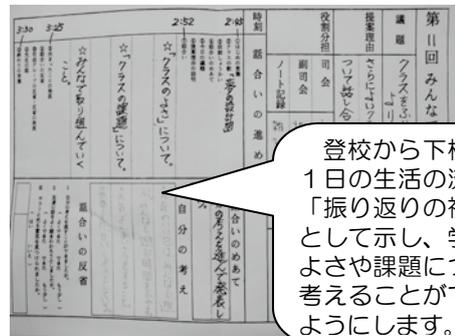
##### (1) 授業のねらい

今までの学級生活を振り返り、学級のよさや課題に気づき、よりよい学級するための方法を考える。

##### (2) 授業の展開

###### 【授業前に】

- 司会グループと学級会の進め方について確認し、児童が主体的に話し合いを行うことができるようにする。また、少数の意見を大切にすることを指導する。
- 「振り返りの視点」を基に、学級のよさと課題についての自分の考えを学級会ノートにまとめておく。



登校から下校まで1日の生活の流れを「振り返りの視点」として示し、学級のよさや課題について考えることができますようにします。

1 「クラスのよさ」について話し合う。

2 「クラスの課題」について話し合う。



友達同士励まし合っていると思います。

クラスのよいところを発表してください。

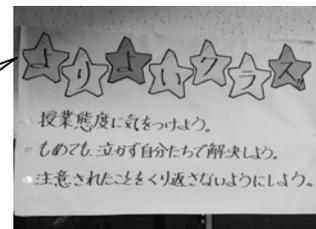
言葉遣いや授業態度に気を付けたいです。理由は、他の人がいやな気持ちになるからです。

次は、クラスの課題を発表してください。

3 課題の中から、よりよい学級にするために取り組むことを決める。

もめたら自分たちで解決できるようにしたいです。理由は、先生がいなくて何もできないのはよくないからです。

話し合いで決まった学級の改善策は教室に掲示し、共有化を図ります。



## 本実践の成果

### (1) 休み時間・放課後等の活動の様子について

#### 児童の創意工夫を生かした係活動の継続により、よりよい人間関係の形成へ

学級をよりよくしたいという思いを生かして係活動を組織したことにより、活動意欲が高まり、休み時間や放課後等を利用して、自主的に係の打ち合わせをするようになった。また、学級全員が楽しく生活できるようにとの願いから、学級新聞の題材について希望を聞いたり、学級遊びの内容についてアンケートをとったりするなど、学級全員の思いを生かし、係活動の内容を工夫する場面も多く見られた。

また、自分たちの係の思いや願いを朝の会で伝え合うことも多くなってきており、友達同士のかかわりも深まってきている。

#### コミュニケーション場面の提示により、相手意識の高まりへ

児童が1日の学校生活を意識できるような掲示を工夫した。

登校時、朝の会、休み時間、給食、清掃、帰りの会それぞれの場面でどのように過ごしたらよいのかという視点を示し、児童が常に意識して生活できるようにした。

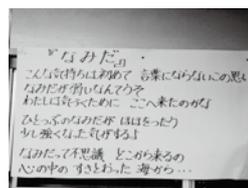
登校から下校までの友達とのコミュニケーションを図る場面に教室に掲示することにより、多くの児童がよりよい人間関係を築こうと常に意識して1日を過ごすようになった。特に、帰りの会では、進んで友達のよさを発表する児童が増えた。4月当初は人間関係ができておらず、教師を介して友達と関わろうとする児童が多かったが、友達を意識して行動できるようになったため、友達のよい言動等に着目できるようになっていったと考える。



### (2) 学級集団の状態の高まりについて

#### 日常的な生活場面のコミュニケーションの充実により、達成感の高まりへ

10月下旬の学習発表会では、「80人が気持ちを一つにして最高の劇をつくりあげよう」というめあてに向かって、児童一人一人が責任をもち、自分の役割を果たそうとする姿が見られた。日頃から係活動での話し合いを主体的に進めてきたことにより、学習発表会に向けて、友達同士積極的に助言し合いながら、練習を進めることができた。話し合いの結果を生かし、演技を工夫したり、衣装・小道具を考えたりする姿が見られた。話し合いの積み重ねにより、「もっとよい劇にしたい」という思いが高まっていき、学習発表会終了後には、「学級全員で成功させることができた」という達成感を児童一人一人がもつことができた。



学習発表会をやり遂げたという達成感から発表会が終わった後も、「なみだ」(学習発表会で歌った歌)を歌いたいという思いが児童から出されました。金曜日の帰りの会で歌うことになり、思いを共有しています。

## 今後の課題

- 本実践を通して、日常的な生活場面におけるコミュニケーションを効果的に位置付けることにより、授業中に自分の考えや思いを進んで発表する児童が増え、誰とでも学び合うことができるようになってきている。今後、授業と授業以外のコミュニケーション双方の高まりの関係性について、客観的に検証していくことが大切である。
- 個々のコミュニケーションの力を身に付けるためには、児童一人一人の課題を明確にし、各教科等との関連を図りながら個に応じた指導を充実させていく必要がある。

## 実践事例3【中学校第1学年】

# 「相互協力」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション

★取り上げた生活場面 休み時間・放課後・帰りの学活 ★関連を図った各教科等 道徳・学級活動

## 学級集団の状態

お互いが協力し合って活動する学級集団になってほしい。

自主性のある自治的な学級集団にしたい。



男女の仲が良く、明朗快活で素直な生徒が多く、何事にも前向きに取り組み、授業中の発言が活発に行われている。

授業中の私語などがあるとリーダーを中心に声を掛け合い、集中して授業に取り組むことができる。

自分たちの生活における学級の問題を発見し、主体的に解決しようとしている。

さらに、学校生活において、何事にも責任のある態度で取り組み、互いに協力し合うことのできる学級づくりを目指していきたい。

## 育てたい人間関係

### 【相互協力】

互いのよさを生かし合い、助け合い、協力し合う関係を形成する。

中学校においては、豊かで充実した学級生活をつくるために、自他の個性を尊重し、役割と責任を果たしながら、互いのよさを認め合うことができるようにすることが大切である。

日常の生活やそこでの生き方、学習や進路に関する課題について、自己をよりよく生かすとともに、共に考えを話し合い、協力して諸問題を解決する機会をもたせ、主体的に物事を選択し、自主的、実践的な態度を育成することが必要である。

集団への所属感を高めるとともに、協力、親和、責任、友情などのもつ意義を理解させ、自己の役割を遂行する満足感や成就感を体得することは大切である。本実践では、他者と助け合い、協力しようとする態度を育てるために、学級活動において「学級レクリエーション」を企画・運営する活動を設定した。そして、日常生活でより主体的に他者と関わり合い、自主的に話し合うことができるようにするとともに、リーダー及びフォロワーの育成するための活動を位置付け、主として道徳及び学級活動との関連を図った指導に重点を置いた。

## 学級活動「学級レクリエーション」

話し合いを自主的に行うために、レクリエーションの企画・運営を設定し、生徒一人一人が自らの役割を果たしながら、生徒同士が協力して話し合いを進められるようにした。

互いのよさを認め、助け合い協力し合って、自主性・自発性のある自治的な人間関係をつくる

### 学級活動「オリエンテーション」(1) -イ・ウ

#### 【ねらい】

学級や学校内の生徒相互の人間関係についての理解を深め、生徒自身がより好ましい関係へ発展させ、学級及び学校生活の充実と向上を図る。

#### 【内容】

学級レクリエーションについての指導を行い、活動の組織づくりをする。

#### 【生活場面との関連】

- ★休み時間・放課後等を利用し、話し合いを通して役割を明確にする。
- ★互いの意見のよさを見付け合うことの大切さに気付かせる。

### 学級活動「学級レクリエーション」(2) -オ

#### 【ねらい】

人間関係について理解を深め、様々な集団の中での望ましい人間関係を確立し、生活の充実と向上を図るため互いのよさを生かし助け合い、協力し合う態度や能力を養う。

#### 【内容】

自己の役割を果たし、ルールのもと、班員や学級全体が協力してレクリエーションに積極的に参加する。

#### 【生活場面との関連】

- ★生活場面の様々な活動において、協力することの大切さを意識付ける。
- ★日々の活動においても、一人一人の役割を明確にさせる。

### 学級活動「学級レクリエーションまとめ」(1) -ア・ウ

#### 【ねらい】

学級の一員として自覚をさせ、よりよい学級集団を構築するためには全員が協力していくことの大切さに気付く。

#### 【内容】

学級活動を通して、自己の成長を振り返らせ、今後の日常生活で実践的に役立つようにする。

#### 【生活場面との関連】

- ★日常生活において、様々な問題について話し合って解決したり、役割をもって処理したりできるよう実践化を図る。
- ★各自が責任を果たし、互いに協力し合うことで、集団生活の向上を図る。

## 生活場面における活動の工夫

学級レクリエーションの企画を通して、生活班別グループが自主的に集まり、活動内容や役割分担等について話し合い、計画書を作成する場面を意図的に設定した。

互いに協力し合い、自己の責任を果たすことで、自主的・自発的な人間関係をつくる

**第3回** 多くの生徒が楽しめるようにルールを工夫して、クラスみんなに楽しんでもらいたいと活動を考える係の生徒

**第2回** 仲間と協力し絆を深めることをねらいとして活動を考える係の生徒

**第1回** 自分たちの班がゲームに参加できないことを不満に思う係の生徒

休み時間・放課後

「学級レクリエーション企画書作成」  
レクリエーションの内容を企画・立案する話し合い活動

【ねらい】

自主的・自発的な話し合いを行い、自らの役割を果たすとともに、相手のよさを認め協力する態度を育てる。

【内容】

生活班で学級レクリエーションの活動内容を話し合い、企画立案する。

帰りの学活

「学級レクリエーションの振り返り」  
学級レクリエーションについて振り返り、話し合う活動

【ねらい】

自分の意見を分かりやすく伝えるとともに、互いの意見のよさを認め合い、よりよい活動にしようとする態度を育てる。

【内容】

学級レクリエーションの実施後、活動を振り返り、学級をよりよくするための意見を出し合う。



協力できていましたが、さらにみんなが楽しめるルールを工夫できればいいと思います。

実践の場面

実践の場面

## 各教科等との関連

本実践では、生徒が協力し合い、自主的に活動できるようにするため、道徳及び学級活動との関連を図った。特に、社会的スキルを身に付けたり、日常の学級生活を振り返ったりする活動に重点を置いた。

学級の一員としての責任をもち、協力して課題を解決しようとする態度を育てる

学級活動

「学級の課題に対する改善策を考えよう」(1)ーア

【ねらい】

- 学級の様子を振り返り、互いに意見を伝え合うことで、学級への関心を高め合う。
- 自分の思いを分かりやすく伝え合い、相手の思いを受け止め合う。

【内容】

学級生活を振り返り、互いに意見を伝え合うことで、生徒自らが学級の課題を見出し、改善に向けて話合う。

【生活場面との関連】

- ★日常生活を振り返り、学級の課題を見出し、改善策を話し合う。

日常生活や話し合い活動で相手を尊重し、適切な言葉の使い方を考える

道徳「相手の立場を考えて」2ー(1)

【ねらい】

相手の立場を考えた適切な言葉かけの大切さを理解し、実践する意欲を高める。

【内容】

- 1 二人がけんかになった理由を考える。
- 2 コミュニケーションのパターンを使ってロールプレイを行う。

- ①消極的コミュニケーション  
自分の立場を示さずに、相手の言いなりになってしまう
- ②攻撃的コミュニケーション  
自分の考えを押し通そうとする。相手の言葉を聞き入れない
- ③積極的コミュニケーション  
自分の意見をもち、相手が納得できる理由を言う

- 3 コミュニケーションのパターンを、二つの言葉かけに整理する。

ふわふわ言葉：言われてうれしい言葉  
ちくちく言葉：言われたくない言葉

- 4 二つの言葉かけをもとにロールプレイを行う。

【生活場面との関連】

- ★時と場合にあふさわしい言葉遣いや人との接し方を日常に生かすことができるようにする。

## 学級活動「学級レクリエーション」

### 互いのよさを生かし合い、助け合い、協力し合う関係を育成する

学級活動において、日常生活におけるコミュニケーションの充実を図るとともに、生徒一人一人のコミュニケーションの力の向上を目指し、生活班による学級レクリエーションの企画・運営を計画した。昼休みや放課後の時間を利用し、班ごとにレクリエーションを企画する段階では、事前の活動で学習した話し合い活動における正しいコミュニケーションの方法（平等性・自己尊重・積極的参加など）を実践することができるようにした。

また、班長を中心とした主体的・自発的な話し合い活動は、リーダー及びフォロワーを育成することにもつながっていくと考える。

### 「オリエンテーション」

#### 互いのよさを認め、助け合い協力し合い、自主性のある自治的な人間関係をつくる

班長を中心とした生徒同士の話し合い活動を円滑に行うためには、生徒一人一人のコミュニケーションの力を高める必要がある。

事前の活動では、学級レクリエーションの進め方を理解するとともに、話し合い活動が円滑に、かつ充実したものになるためのコミュニケーションの方法を重点的に指導し、意識化を図った。

#### オリエンテーション

##### 事前の活動

- ・学級レクリエーションのねらいについて
- ・話し合い活動における留意点について
  - 1 平等に話し合いを進めること
  - 2 他者の意見にしっかり耳を傾けること
  - 3 他者の意見を尊重し、否定しないこと
  - 4 積極的に話し合いに参加すること
- ・組織づくり(班長・副班長決め)
- ・レクリエーションの順番決め
- ・レクリエーションの内容決め

#### 教師の支援

##### 【ポイント】

- ★学級レクリエーションのねらいを明確に示し、学級全体で共有できるようにする。
- ★話し合いの進め方のポイントについて、班長に個別に指導を行う。
- ★相手の考えを自分の考えと比べて聞き、相手の考えのよさを見付け、発表するよう助言する。

### 「学級レクリエーション」

レクリエーションの運営を進めていく場面では、学級集団の自治的な力を高めることができる。自治的な力とは、自分たちに関する様々なことに責任をもって処理する力である。したがって、自分たちの正しい判断力を基盤にして話し合ったルールによりレクリエーションを進めていくこと、一人一人が自分のもつ役割を果たしながら、レクリエーションを成功させるために仲間同士で協力し、互いに高め合い、よりよい活動へ発展させていくことができると考えた。

#### 学級レクリエーション

##### 第3回

##### 第2回

##### 第1回

- レクリエーションを企画した班のメンバーの係分担を明確にし、一人一人が自己の役割を果たす。
- 決められたルールのもと、積極的に協力しながら学級全員でレクリエーションに参加する。

#### 教師の支援

##### 【ポイント】

- ★係分担を明確にし、カードに記入させることで、責任をもって自分の役割を果たすことができるようにする。

##### 振り返りの視点

- ・責任をもって役割を果たす
- ・協力したレクリエーションへの参加
- ・ルール設定

# 生活場面における活動の工夫

## 休み時間・放課後「学級レクリエーション企画書作成」

互いに協力し合い、自己の責任を果たすことで、自主的・自発的な人間関係をつくる

生活班別のグループで話し合う機会を設定した。事前の活動で学んだコミュニケーションの方法を活用して話し合うことで、一人一人のコミュニケーションの力を高めていくことにつながると考えた。

レクリエーションの実施後、活動を振り返り、課題を明確にした上で、次回のレクリエーションを成功させるために話し合い、企画を立案していく。また、企画立案後、協力し合い準備等を進めることを通して、一人一人に学級集団の一員としての自覚をもたせ、自治的な力の向上を図った。

### 学級レクリエーション企画書作成

#### 第1回

- 活動名「宝探し」
- 班で設定した活動のねらい  
班のみんなで協力して楽しむ。
- 主な話し合いの内容  
活動場所、ルールの設定、当日の流れ、用具準備

#### 第2回

- 活動名「ドロケイ」
- 班で設定した活動のねらい  
同じチームの仲間と協力し絆を深める。
- 主な話し合いの内容  
課題となったルールについて熟考し、全員が楽しめる新たなルールを設定した。誰もが公平だと思えるチームを編成するよう配慮した。

#### 第3回

- 活動名「オリエンテーリング」
- 班で設定した活動のねらい  
クラスみんなで楽しみ、全員が協力し合う。
- 主な話し合いの内容  
ゲームやクイズの内容を決め、ルールを細かく設定した。場の設定を改善し様々な場所に分かれて班ごとにゲームを行うなどの工夫をした。

日頃からコミュニケーションを行う中で、友達への理解が深まり、ゲームやクイズの内容が友達に関連した内容となりました。

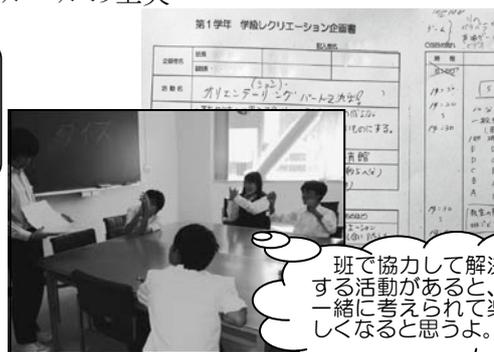
### 教師の支援

#### 【ポイント】

- ★班員全員が必ず一役以上できるように助言する。
- ★前回の活動の振り返りで、課題として学級全体で共有した点について重点的に話し合うよう助言する。

#### 振り返りの視点

- ・協力した運営
- ・他者の楽しませ方
- ・前回の活動の課題
- ・学級全体を考えた取組
- ・ルールの工夫



## 帰りの学活「学級レクリエーションの振り返り」

### 学級レクリエーションを振り返る活動

- レクリエーションについてのアンケートを記入し、よかった点と課題について発表する。
- 振り返りの活動で挙げた課題を踏まえ、次回のレクリエーションの企画につなげる。
- 振り返りを積み重ね、よりよい行動を考え、活動に生かす意識をもつ。

### 教師の支援

#### 【ポイント】

- ★視点を明確にして振り返り、次回の活動に生かすことができるようにする。

#### 振り返りの視点

- ・活動のよかった点、課題

## 学級活動「学級レクリエーションまとめ」

生徒一人一人が学級レクリエーションにどのように関わったかを振り返り、学級及び自分自身がどのように成長したかをアンケートに記入させた。この活動を通して身に付けた力を、今後の生活の中でどのように生かしていきたいか考えさせ、よりよい学級集団の育成を目指した。

### 事後の活動

- ・学級レクリエーション振り返りアンケートの記入
- ・生徒による発表
- ・まとめ

仲間と協力することを学びました。

人と関わることが楽しくなりました。

#### 【ポイント】

- ★学級レクリエーションを通して、自己と学級全体の成長を考えさせる。

#### 振り返りの視点

- ・よりよい学級集団への生徒の思い
- ・自らの成長

# 各教科等との関連

## 学級活動「学級の課題に対する改善策を考えよう」

### 学級の一員としての責任をもち、協力して課題を解決しようとする態度を育てる

学級の状態を把握し、定期的実施することで、生徒一人一人が学級全体に目を向けた意見を出すようになってくる。

どのような学級が望ましい学級なのか、学級全体で共通理解を図った上で、「学級満足度調査」を行った。その結果を生かして学級のよさや課題について話し合い、解決策を考えるようにした。自分たちで考えた解決策を実際に行っていくことを通して、協力し合ってよりよい学級をつくっていこうとする意識が生まれ、自治的な力を高めることができると考えた。

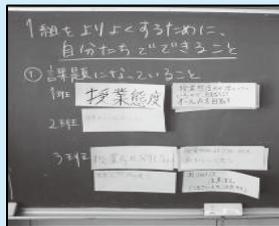
#### (1) 授業のねらい

- 学級の様子を振り返り、意見を伝え合うことで、学級への関心を高め合う。
- 自分の思いを分かりやすく伝え合い、相手の思いを受け止め合う。

#### (2) 授業の展開

##### 1 課題をカテゴリに分ける。

クラスのみなが思う課題は何ですか？

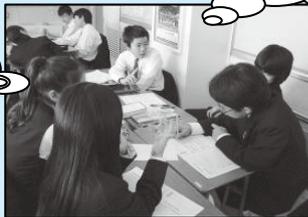


#### 【ポイント】

- ★話し合いを主体的に進めることができるよう、「話し合いのポイント」を示す。
  - ・話を聞く姿勢…目を見る、付け足しや反論は相手の話を聞いてから
  - ・意見の尊重…全員から意見を聞く
- ★全体の司会や各班の司会（班長）に話し合いの進め方について事前に指導する。

##### 2 具体的な改善策を話し合う。

原因を考えて、具体的な改善策を提案しようよ。



よりよいクラスにするために、自分たちができることは何だろうか？

#### 班長のあなたへ

今日の5時間目に、クラスのことについて、班で話し合いをします。

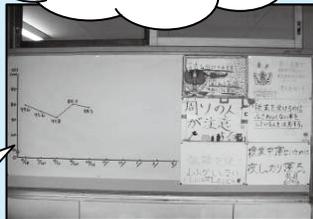
#### <ポイント>

- ・きちんと肌を合わせる。
- ・考える時間を少しとる。
- ・「なし」と言わないように、きちんと考えてもらう。
- ・意見をみんなから聞く。聞きやすいような言い方をする。言いやす
- ・意見を出し合ったり、紙に書いたりする作業は、司会の方が言う時

##### 3 改善策を画用紙に記入する。



発表したまともを振り返られるように画用紙に大きく書こう。



解決策を掲示し、常に振り返りができるようにします。

#### 振り返りの視点

- ・学級満足度調査の意見を基にカテゴリに分けた課題
- ・学級集団をよりよくするための生徒の思いや願い

### 学級満足度調査( 月 日 )

・今の時点で、1年1組に点数をつけるとしたら何点をつけますか？(100点を満点とします。)

・なぜ100点にならなかった(なった)のですか？また、100点にするために必要なことはなんですか？

必ず書く！ 具体的に書く！

※個人的なことも、クラス全体のこともかまいません。

1組 番氏名

どのような学級が望ましい学級なのか生徒一人一人が考えます。また、現在の学級では何がよく、何が課題なのかを考えます。

みんなの意見を読み、何が課題かを考えます。

#### よりよい1組にしていくために

平成23年11月7日

<クラスの様子を振り返って>10月31日の学級満足度調査から

	点数	上下	コメント
1	100	1	合唱で一つになったから。注意する人が増えた。
2	100	1	合唱コン練習など一つ一つになって頑張れたから。
3	99.9999	1	4月より協力している。ときどき悪口を聞く。
4	100	1	しゃべり声があるけど、すっごく仲よし〜。

## 本実践の成果

### (1) アンケートの結果について

学級レクリエーションの活動全体を通して、自己の振り返りや集団についての振り返りを行うため、学級や生徒の意識や変容についてアンケートを実施し、下記の結果となった。

項目		とても思う	まあまあ思う	肯定的意見
学級全体のこと	質問1	47.1%	47.1%	94.1%
	質問2	55.9%	38.2%	94.1%
	質問3	47.1%	41.2%	88.2%
個人に関すること	質問4	58.8%	32.4%	91.2%
	質問5	50.0%	38.2%	88.2%
	質問6	52.9%	35.3%	88.2%
	質問7	61.8%	29.4%	91.2%
	質問8	52.9%	35.3%	88.2%
	質問9	67.6%	26.5%	94.1%

コミュニケーションに関する項目に着目してみると、「質問2」「質問4」「質問5」「質問9」の4項目は「4 とても思う」と回答している生徒が半数以上であった。

このことから、「学級レクリエーション」という活動を通して、生徒のコミュニケーションに対する意識に変容があったと考える。

#### 生徒の記述

**学級の成長(高まり):** ・協力して考える力、人のために貢献する力、周りの意見を聞く力、話し合う力、一人一人の個性を尊重する力、他者を思いやる力、互いに助け合う力 等

**自己の成長(学んだこと):** ・仲間と協力すること、人との関わりが楽しくなったこと、自分の意見を主張することの大切さ、話し合うことの大切さ、みんなが意見を出し合い、集まったアイデアからいいものを決められるようになったこと、責任をもって仕事をやりとげることの大切さ、一人一人を補いながら協力すること、人を喜ばせることの楽しさ 等

上記のような生徒の実際の記述から、学級集団として「協力」「助け合い」「他者の尊重」等の力が高まったと感じ、「協力すること」「人と関わること」「話し合うこと」等のコミュニケーションの大切さについて学ぶことができたと考えられる。

### (2) 授業・休み時間における生徒の様子について

#### 学級レクリエーションを設定したことで、関わる楽しさやコミュニケーションの重要性の実感へ

生徒間のコミュニケーションが活発になり、日常的な生活場面はもちろん、各教科等の授業において、生徒同士が主体的に教え合ったり互いに意見を聞き合ったりする姿が多く見られた。

休み時間などの友人関係のトラブルについて話し合って解決していこうとする場面が多く見られるようになった。生活場面で話し合う場面が増えたことで、他者と関わる楽しさを味わったり、生徒一人一人がコミュニケーションの重要性をより実感を伴って理解したりすることができた。

### (3) 学級集団の状態の高まりについて

#### 自他を認め合う話し合いを継続したことで、生徒一人一人の成長へ

控え目でなかなか人前で意見を言えなかった生徒が、話し合い活動を通して、互いに認め合いながら意見を交わすことの大切さを経験し自信を付けたことで、学級委員長を務め、全校生徒の前で話すことができるようになった。他者の意見を尊重しながら自分の意見を主張することの大切さを学ぶとともに、自分の役割を果たしながら話し合いを進めることの重要性を実感できたことが生徒一人一人の成長へつながった。

#### 振り返る活動の重視により、認め合い協力し合う学級へ

本実践を通して学級に貢献することに意欲的になり、学級の中で自分の係以外の仕事にも進んで取り組み、協力するようになった。他の生徒の様子をよく見て、みんなが平等に活動できるよう配慮する態度が顕著に見られるようになった。

「活動⇒振り返り」のサイクルで振り返る活動を積み重ねることにより、生徒同士が互いの意見のよさを認め合ったり、課題解決のための改善策を考えたりして、よりよい活動への意識が高まり、話し合いが活発になり自治的に活動することにつながった。

## 今後の課題

○休み時間や放課後は、生徒の自発性に任せられることが大きい。教員が関わる時間を意図的に増やし、生徒の様々な生活場面の実態を把握し評価を進めていく必要がある。

## 実践事例4【中学校通級指導学級】

# 「相互理解」の人間関係づくりに重点を置いたコミュニケーション

★取り上げた生活場面

給食・清掃

★関連を図った各教科等

学級活動・自立活動

## 学級集団の状態



通級指導学級には、学校生活に様々な困難を抱えた生徒が通ってきている。その中でも、他の生徒との人間関係に不安を感じたり、トラブルを経験したりしている生徒も多い。具体的には、「一方的に自分の思いを伝えるだけで、相手の気持ちや考えを受け止めることができない」「自分の思いをうまく表現することができず、言いたいことを我慢してしまう」生徒が多く見られる。

このような状況を改善し、自分の思いを分かりやすく伝え、相手の気持ちや考えを受け止められる生徒の育成を目指していきたい。

## 育てたい人間関係

### 【相互理解】

互いのよさや違いを共感的に理解し合う関係を形成する

在籍学級のような大集団の中で学校生活を円滑に過ごすためには、まず1対1や少人数でのコミュニケーションを成立させる必要がある。

そのために、話し方、聞き方などの基本的なスキルを身に付けるとともに、「友達を遊びに誘う、友達が遊んでいる中に入る」「待ち合わせに遅れたとき謝る」など、日常起こり得る場面を具体的に設定する中で、その場にふさわしい対応を考えることが大切である。そのような経験をする中で、日常生活に生きるコミュニケーションの力が身に付いていく。

また、トラブルの解決策を考える手順を身に付け、相手の立場に立って考えることの大切さに気付くことで、自分たちの力で人間関係におけるトラブルを乗り越えることができると考える。

そこで、学級活動及び自立活動との関連を図りながら、生活を円滑に送るための土台を築くための指導を行った。

## 生活場面と各教科等との関連

### 学級活動「トラブルの解決策を考えよう」

トラブルの解決策を考えるための手順を知り、自分の力でトラブルに対応できるようにするとともに、相手の立場に立って解決策を考えることの大切さに気付く。

トラブルのよりよい解決策について話し合い、相手の立場で考えることの大切さに気付く

### 学級活動「トラブルの解決策を考えよう」(2) -オ

#### 【ねらい】

問題解決の手順を理解し、自分の力で問題を解決できるようにする。また、自分も相手も納得できる解決策を選択できるようにする。

#### 【生活場面との関連】

★生活場面における様々なトラブルの例を取り上げ、日常生活と関連付ける。

相手の意図や感情を的確に把握し、場に応じた適切な行動することができる態度を育てる

### 自立活動「相手の気持ちを考えよう」3-(2)

#### 【ねらい】

時と場合を考え、相手の立場に立った適切な行動をとることができるようにする。

#### 【内容】

相手との関わり方の具体的な方法を身に付ける。

#### 【生活場面との関連】

★相手の立場に立った関わり方を実践的に生かすことができるようにする。

## 「給食・清掃」

生徒が互いを理解し合い、役割を分担して活動する

### 給食・清掃「当番活動」

#### 【ねらい】

当番活動の役割を十分に理解するとともに、学級に貢献していることを実感する。

#### 【内容】

生徒が自分たちで話し合い、役割を分担することで、自主的に活動する。

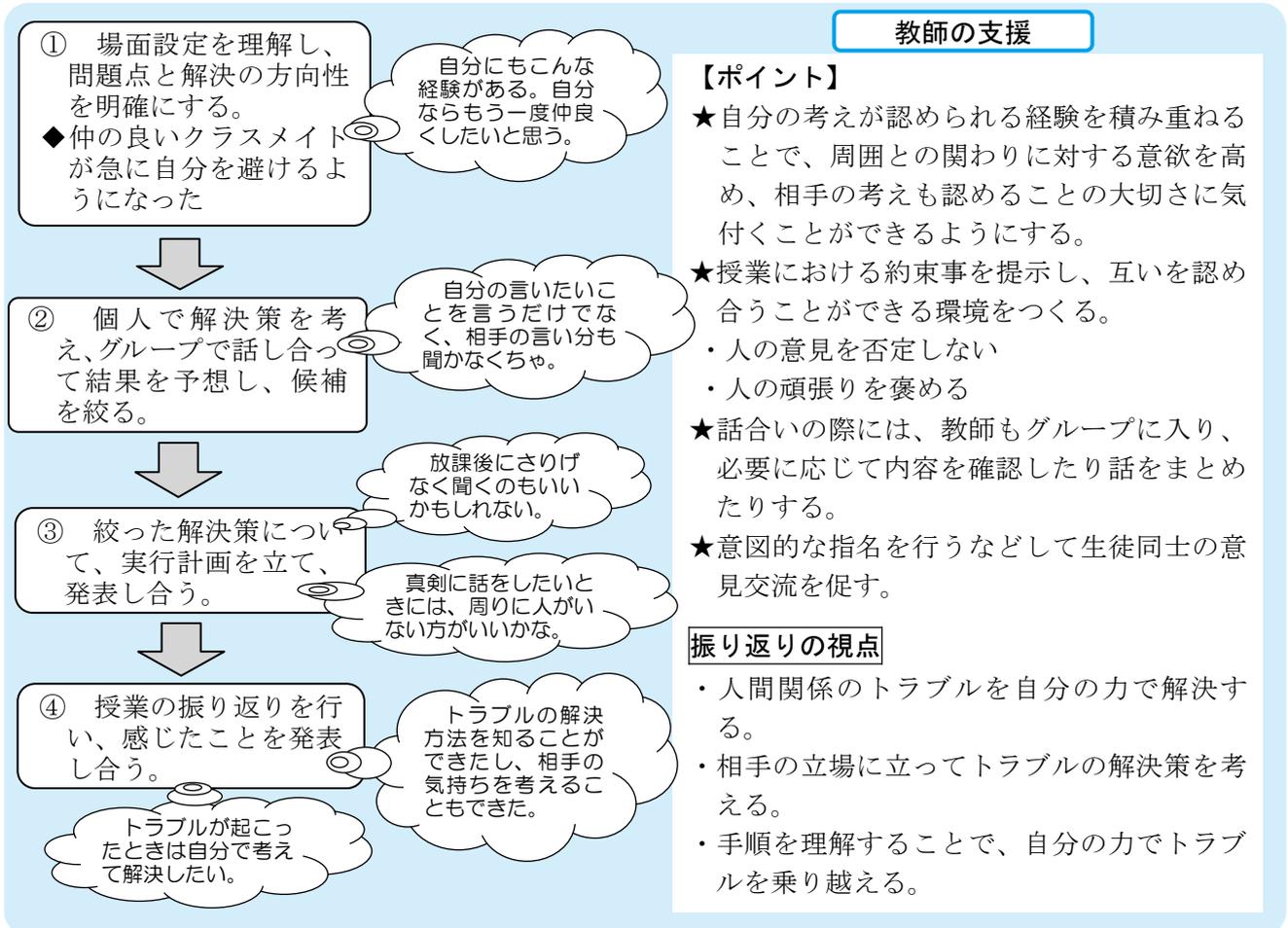
## 各教科等との関連

### 学級活動 「トラブルの解決策を考えよう」

トラブルのよりよい解決策について話し合い、相手の立場で考えることの大切さに気付く。

トラブルの解決策を考えるための手順を理解し、一人一人の考えた解決策をグループで検討することで、物事を相手の立場から捉えることの大切さに気付く、双方が納得する解決策を考えることができるようにする。

- (1) 授業のねらい
  - 問題解決の手順を知り、自分たちで問題を解決できるようにする。
  - 自分も相手も納得できる解決策を選択できるようにする。
- (2) 授業の展開



## 本実践の成果

- 各教科の授業において、積極的に発言する姿が見られるようになってきた。
  - ふざけたり相手を傷付けたりするような発言に対して、注意できる生徒が見られるようになってきた。
  - 実践前には見ることのできなかつた、昼休みに周りの人を誘って遊ぶ姿が見られるようになってきた。
  - 清掃の分担で、自分のやりたい仕事を積極的に伝えることができるようになってきた。
  - やりたい仕事他者と重なった際に、ジャンケンで決めていたが、話し合いにより譲り合いながら決める様子が見られるようになってきた。
  - 給食の時間、自分のやりたい仕事しかやらなかつた生徒が、他の生徒の希望を聞き、相談しながら分担を決めて準備を進める様子が見られるようになってきた。
  - 一方的になりがちだった日常会話において、相手の発言に流されることなく、しっかりと自分の考えを伝えられるようになってきた。
- 以上の生徒の様子から、本実践を通して他者との関わりを意識した学校生活を送ることができるようになってきたと考える。

本委員会では、実践を通して成果を分析・考察することにより、次の点が明らかとなった。

### まとめ

#### 学習コミュニケーション部会

##### ○学習集団の状態の分析による効果的な手だての明確化

学習集団の状態を分析し、その状態に応じた適切な手だてを授業ごとに講じていくことが、児童・生徒同士の関係性がより強まるとともに、主体的な学習態度につながるなど、教科等のねらいを達成するためには効果的であることが分かった。

##### ○「集団」と「個」の視点の明確化による思考を深める授業づくり

「集団」と「個」という2つの視点を明確にした授業づくりを進めてきたことで、多様な考えから集団の考えを発展させ、課題解決を図るとともに、児童・生徒一人一人が自己の考えを再構築することができ、教科等のねらいに迫ることができた。

#### 生活コミュニケーション部会

##### ○生活場面のねらいの明確化及びねらいに即した活動の工夫による人間関係の構築

児童・生徒相互の人間関係をより高めていくためには、生活場面のねらいを明確にし、そのねらいに即し育てたい人間関係を形成するためのコミュニケーションを図る活動を意図的・計画的に設定する必要があることが分かった。

##### ○生活場面と各教科等との関連の明確化による個々のコミュニケーションの力の向上

生活場面では、児童・生徒は、授業と比べありのままの姿を出しやすい状態におかれているため、学校生活全般を通して、各教科等との関連を図りながら生活場面における活動を継続的に行っていくことにより、一人一人の児童・生徒にコミュニケーションの力を身に付けることができた。

### 今後の課題

#### 学習コミュニケーション部会

##### ○リーダーを中心としたコミュニケーションに向けた指導の充実

コミュニケーションの充実により、児童・生徒一人一人が各教科等のねらいを確実に達成することができるようにするため、全ての児童・生徒が参加するコミュニケーションに向け、指導をさらに充実していく必要がある。

##### ○児童・生徒同士の関係性のよさを踏まえた手だての工夫

授業場面におけるコミュニケーションにおいて、学習課題等に応じて、児童・生徒同士のもつ関係性のよさを引き出すとともに、集団の支持的風土を高める指導の手だてをより一層工夫する必要がある。

#### 生活コミュニケーション部会

##### ○学級集団の高まりの意識化を図る指導の工夫

よりよい学級集団を形成するためには、学級集団の状態を様々な方法を活用して分析し、児童・生徒一人一人が学級集団の高まりを意識できるよう指導の手だてを工夫する必要がある。

##### ○個に応じたきめ細かな指導の充実

個々のコミュニケーションの力を高めていくためには、集団と個の関係を把握した上で、人間関係の育成における個々の課題を明確にし、家庭との連携を図りながら指導を充実させていく必要がある。

# 委員名簿

委員長 持田 浩志 (武蔵村山市教育委員会教育長)

副委員長 花田 茂 (昭島市教育委員会指導室長)

## 委員

### 【学習コミュニケーション部会】

部会長 宮城 洋之 (三鷹市立第三中学校副校長)

委員 齋藤 直大 (立川市立第三小学校教諭) 委員 中村 将行 (昭島市立玉川小学校主任教諭)

委員 中野 悟 (町田市立函師小学校教諭) 委員 櫻井 正義 (小平市立小平第六小学校主任教諭)

委員 栗原 涼 (八王子市立横山中学校教諭) 委員 高道有美子 (東村山市立東村山第一中学校主任教諭)

委員 石田沙世子 (国立市立国立第三中学校教諭) 委員 濱田 和樹 (東久留米市立中央中学校教諭)

### 【生活コミュニケーション部会】

部会長 出町桜一郎 (東村山市立野火止小学校副校長)

委員 田端 敦子 (国分寺市立第二小学校主任教諭) 委員 渡辺 毅 (稲城市立稲城第六小学校教諭)

委員 石川 真一 (羽村市立栄小学校主幹教諭) 委員 岩瀬 久芳 (三鷹市立第二中学校主任教諭)

委員 荒井 貴裕 (調布市立第四中学校教諭) 委員 難波 裕司 (武蔵村山市立第四中学校教諭)

## 事務局 東京都多摩教育事務所

所長 坂 崇 司 (4月~7月)

桐 山 靖 彦 (8月~)

指導主事 西川 さやか

指導主事 泉田 巧人

指導主事(併任) 椿田 克之

指導主事(併任) 拝原 茂行

教育専門員 鈴木 文雄

指導課長 小林 幹夫

統括指導主事 児玉 大祐

指導主事 川元 泰史

指導主事 世古 公士

指導主事(併任) 吉岡 拓真

教育専門員 村井 恒

教育専門員 高濱 俊光

東京都多摩地区教育推進委員会  
第17次計画(通算第38年次)報告書

平成24年2月

編集・発行

〒190-8543 東京都立川市錦町6-3-1

TEL 042-524-7137 FAX 042-528-0985

印刷 株式会社 タマタイプ

登録番号 23(4)

この報告書は、東京都多摩教育事務所のWebページに掲載しています。御活用ください。

URL <http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp>

